令和元年　第１３回　川口市教育委員会定例会会議録

日　時　令和元年８月３０日（金）
午前９時
場　所　川口市教育局２階会議室

１　出席者

教育長	茂　呂　修　平	書記長	稲　垣　雅　世
委　員	齋　藤　　卓	書　記	栗　原　　栄
委　員	宿　谷　岩　男	書　記	菅　井　　学
委　員	中　田　裕　之	書　記	戸井田　昌　也
委　員	菅　原　京　子		

２　説明のため出席した者

生涯学習部長　　間　中　浩　之
学校教育部長　　山　田　浩　一
（専門委員長）
指導課長　　三　浦　伸　之

専門委員	林　奈緒美	事務局	新井　朋子
専門委員	土橋　仁	事務局	向井　剛生
専門委員	中河　正明	事務局	小堀　貴紀
専門委員	久保田　真一	事務局	川島　慎也
専門委員	三好　正浩	事務局	菊地　陽子
専門委員	関口　景子	事務局	三浦　伸之
専門委員	板橋　利行	事務局	新居　良介
専門委員	井上　千春	事務局	藤田　由美恵
専門委員	川端　浩司	事務局	石田　智久
専門委員	小田　正美	事務局	大野　健一
専門委員	大竹　伸明	事務局	小久保　理恵
専門委員	川鍋　岳人	事務局	上倉　義郎
専門委員	大場　真	事務局	中山　直紀
専門委員	阿部　弘之	事務局	猿橋　武司
専門委員	寺田　和成	事務局	村越　崇
専門委員	磯　奈保子	事務局	髙橋　大喜
専門委員	小出　喜代子		
専門委員	岡安　孝文		

専門委員　瀬山　真一
専門委員　奥墨　伸夫

3　前回会議録の承認

茂呂教育長　　第１２回教育委員会定例会会議録については、書記より、各委員に事前配付している。質疑があればお聞かせ願いたい。

【質　疑】　　（質疑なし）

【承　認】　　（全員異議なく承認）

4　教育長報告

なし

5　協議事項

なし

6　議　事

茂呂教育長　　関係理事者の入室を求める。

【上　程】

茂呂教育長　　議案第１１６号「令和２年度使用小学校教科用図書の採択について」及び、議案第１１７号「令和２年度使用中学校教科用図書の採択について」を上程し、説明を求める。

【説　明】

指導課長　　（議案第１１６号「令和２年度使用小学校教科用図書の採択について」及び議案第１１７号「令和２年度使用中学校教科用図書の採択について」資料に基づき説明した。）

【質　疑】

茂呂教育長　　指導課長から「議案第１１６号」及び「議案第１１７号」について説明があった。すでに教科用図書については、委員それぞれに見本本と調査員の報告書、校長からの報告書が事務局より事前に送付され、十分に閲覧、研究されているものと思う。本日はしっかりと協議し、採択していく。

協議の進め方であるが、専門委員に専門委員会の調査結果について説明を求め、協議し、最後に採択する教科書を決めていきたいと考える。

また、本日は小学校、中学校両方の教科書を採択するが、小学校については教科ごとに、中学校については一括して採択する教科書を決めていきたいと考えるが、それでよろしいか。

委　員　　（異議なし）

茂呂教育長　　はじめに、専門委員長より専門委員会における統括の経過等について報告を求める。

専門委員長　　本年度の専門委員会のこれまでの経過について報告する。

６月３日に専門委員会が組織されてから、「川口市立小・中学校使用教科用図書の採択に関する規則」に基づき、全３回の専門委員会を行ってきた。

具体的には、規則に定められている調査研究機関である調査員会からの調査結果、各学校長からの報告を踏まえた上で、保護者のご意見等も参考とし、とりまとめを行った。

その際、学習指導要領の趣旨を生かした各教科書の編集について、また、川口市の児童生徒の実態に即して、学ぶ上で、より「有効・適正」な教科書であるかという２点を中心に、分析・研究を行ってきた。これらの分析・研究結果については、すでに教育委員会に報告をしているところである。

以上である。

茂呂教育長　　ただいまの報告について、何か質問はあるか。

委　員　　特になし。

茂呂教育長　　それでは、川口の児童生徒の課題を踏まえ、しっかりと審議し、児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい教科書という観点から採択していきたいと考える。

まず、専門委員に学校からの報告、保護者の意見等に基づき、調査員会で調査、分析した内容等について説明を求め、質疑する形をとり、その上で協議に入るという形で進めていきたいと思うが、それでよろしいか。

委　員　　（異議なし）

菅原委員　　それでよいと思うが、協議を進める上では、各教科書の項目ごとにそれぞれ特長がある。また、非常に多くの教科書があるので、協議していく上で、本市の児童生徒の実態を踏まえ、特にどの観点を中心に協議すべきかをある程度絞って協議する方が、よりよい教科書を選ぶ上での協議が深まると思うがいかがか。

委　員　　（異議なし）

茂呂教育長　　今の菅原委員の意見も踏まえ、進めていきたい。

それでは、教科書の協議に入る。まず、教科書の調査、分析した内容等についての報告のため専門委員の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導

要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点でよりよい教科書を選んでいく考えである。

そこで専門委員に入室をお願いした。小学校国語の教科書について、専門委員会の調査、分析の内容等について、説明いただいた上で、質問をさせていただく。国語の後で、引き続き書写について改めて説明をお願いする。

それでは報告をお願いする。

林専門委員　調査員会では、新学習指導要領の内容、及び、川口市の児童と教師の実態をふまえて、各教科書の内容を精査し検討をした。その結果、どの教科書においても、その構成や内容に優れた工夫が見られたが、調査員会では光村図書の教科書を使用することを推薦する。詳細につきましては報告書のとおりである。

国語においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。そのため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けることにつながる。また、この資質・能力は、言語活動を通して育成するものである。

そこで、国語の授業では、いかに児童の「言葉による見方・考え方」を働かせ、充実した言語活動を展開するかが重要となり、教師・児童共に、このような授業をつくることのできる教科書が望ましいと考える。

光村図書の優れている点として、まず、身に付けるべき力が明確であることが挙げられる。教師・児童共に学習の目的を明確にもち、言葉に向き合い言葉への自覚を高めていくことができる。

２点目は、身に付けるべき力がつく言語活動が設定され、学習過程が統一・工夫されていることである。児童が見通しを持って主体的に学習を進めることや、確かめたり振り返ったりすることを繰り返しながら力をつけていくことが期待できる。また、どの教師でも同じように指導していくことができる。

３点目は、各領域のバランスのよさと関連が図られていることである。特に「情報の取り扱い」と「書くこと」の関連は、本市の児童の課題克服に有効であると考える。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　国語科に関する川口市の児童の学力の現状はどのようなものか。

新井指導主事　教師の授業改善の努力により、全国及び県の学力・学習状況調査の結果において、毎年少しずつではあるが、学力の向上が見られている。

今年度は、さらに学力向上の成果が見られ、各調査において、４年生から６年生の調査対象全ての学年において、全国・県平均を上回る結果となった。

成果の一方で、主な課題は、２点である。

４年生・５年生では、国語辞典・漢字字典の使い方等に関することの定着が不十分であること。

４年生から６年生において、目的や意図に応じて資料を読んだり、活用したりして、自分の考えをまとめること。

以上である。

齋藤委員　国語科における川口市の教師の授業の実態はどうか。

新井指導主事　言語活動を通して、指導事項を指導することが国語科では重要な授業づくりのポイントであるが、徐々にその理解が進み、各校では、優れた授業実践が増えてきている。その一方で、どのような学習過程で指導するとよいのか、適切な言語活動は何かについて悩みながら実践をしている教師もいる。

宿谷委員　来年度から全面実施される新学習指導要領において、国語科ではどのようなことが重視されているのか説明をお願いしたい。

新井指導主事　最も重視されていることは、「更なる言語活動の充実」である。

その他には、「情報の取り扱いに関する指導の改善・充実」「学習過程の明確化」「自分の考えの形成」等がある。

中田委員　「言語活動の充実」が重要ということだが、それは他教科でも言われている。なぜ、国語科では、特段に「言語活動の充実」が重要と言われているのか、説明をお願いしたい。

新井指導主事　国語科は、「言葉を通じた理解や表現、また、そこで用いられる言語そのものが学習対象である」という、他教科にはない国語科独自の特性がある。従前より学習指導要領では、言動活動を通して、国語科の資質・能力を育成することが基本とされている。そのため、特段に国語科では、「言語活動の充実」が重要とされている。

中田委員　「言語活動の充実」に関して優れている教科書について、説明していただきたい。

林専門委員　調査結果としては、「東京書籍」「光村図書」「教育出版」３社が優れていた。

「東京書籍」と「光村図書」は、その単元で身に付けたい力が明確に示されており、その力を身に付けるための言語活動が教師にも児童にも分かりやすく示されている。また、「光村図書」は、学習過程が統一されており、見通しをもって学習を進めることもできる。

「教育出版社」は、例えば、読む領域と書く領域が複合的に構成された単元があり、目的意識や相手意識をもちやすい言語活動が設定されている。

菅原委員　「言語活動の充実」の他に、重視した観点があれば、教えていただきたい。

林専門委員　新学習指導要領では、各教科等で育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の３つの柱で整理している。言葉による見方・考え方を働かせ、この３つの資質・能力を育成するために、各教科書では、どのような内容が取り上げられていて、どのような学習過程等の工夫がみられるのかについて重視した。

菅原委員　３つの資質・能力の中で、「知識及び技能」について、調査の結果の見解をお願いしたい。

林専門委員　調査員会では、特に、新設された「情報の扱い方に関する事項」の充実具合について調査した。その結果、「光村図書」が最も明確に示されており、「書くこと」と関連を図るなど工夫が見られた。指導する側も新設された意図を理解することができ、指導しやすいと思われる。

また、この部分の充実は、先程申し上げた本市の児童の課題「目的や意図に応じて資料を読んだり、活用したりして、自分の考えをまとめること」の克服に非常に有効であると考える。

菅原委員　「思考力・判断力・表現力等」に関しては、いかがだったか説明をお願いしたい。

林専門委員　「思考力・判断力・表現力等」の育成に関しては、言語活動の充実と学習過程の明確化が重要である。

「東京書籍」は、身に付けたい力と言語活動が明確である。

「教育出版」は、複合単元構成によって、児童の思考を深めるものとなっている。

「光村図書」は、身に付けたい力と言語活動が明確であるとともに「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」どの領域においても学習過程が明確である。スパイラル状に育成したい力が育成されることが期待できる。

菅原委員　最後に、「学びに向かう力・人間性」に関しては、いかがだったのか。

林専門委員　調査結果としては、全ての教科書において国語科で学んだ言語能力が他教科等の学習や日常生活に活かされるよう工夫されていたが、中でも「光村図書」においては、その内容が具体的であり、充実していたと考える。

茂呂教育長　冒頭の説明でも、「光村を推薦する」と報告があったが、総評して、調査員会としては、本市の児童の学力向上のために、どの教科書が最適だと考えているのか、改めて伺いたい。

林専門委員　調査員会としては、身に付けるべき力が明確にわかること、そのための言語活動や学習過程に工夫があること、本市の児童の課題を克服するための内容が充実していることを鑑みまして、「光村図書」の教科書が最適であると考えた。

どの先生にとってもわかりやすく、一層の指導の工夫・改善が期待できると考える。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　続けて書写について報告をお願いする。

林専門委員　書写においては、点画など字形をとらえた一文字の書き方、文字の集まりの書き方を理解し、文字を正しく整えたり速さを意識したりして書くことを通し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

このことを鑑みた結果、それぞれの教科書において、児童が主体的に学習

に取り組み、日常生活において用具や書き方を考えて書くことができるような工夫がなされていた。中でも、光村図書については、硬筆から毛筆につながる運筆指導が充実しており、系統的にねらいに沿った文字の指導ができる工夫もあり、生活の中で主体的に活用できる書写の知識・技能が習得できるものとなっている。また、様々な比較を通した文字へのアプローチにより、児童が学習の課題に気づき、興味関心を高め、意欲的に学習に取り組んでいくことが期待できる。４５分という限られた時間の中で、効果的に学習のねらいにせまることのできる構成となっている。日常の様々な場面に応じて、書く目的をふまえた用具選びや書き方を判断して書く力を、発達段階に応じて育成していく工夫も充実している。

よって、調査員会としては、光村図書の教科書を推薦する。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　限られた時間内での書写の指導のねらいはどのようなものか、教えていただきたい。

新井指導主事　普段、自分が書いている文字と向き合い、文字を正しく整えて書いたり、書く速さを意識して書いたりできるようにし、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することである。

齋藤委員　書写における川口市の児童の現状はどうか教えていただきたい。

新井指導主事　書写の学習が始まる３年生まで筆や墨に触れた経験がない児童も多くいる。そのため、姿勢、筆の持ち方、筆圧、墨の量等、丁寧に指導する必要がある。

一方で、熱心に習っている児童もおり、二極化が見られる。しかし、多くの児童は、書写が好きであり、意欲的に学んでいる。

齋藤委員　書写における川口市の教師の授業の実態はどうなのか。

新井指導主事　多くの学校では、専科の教師による指導が行われている。中には、主幹教諭が指導している学校もある。どの教師も教科書に明示されている点画や穂先の動き、とめ、はね等を丁寧に指導している。同じ教師がどの学級も指導しているので、指導に統一性があり、児童も一歩一歩、技能を身につけている。

宿谷委員　来年度から全面実施される新学習指導要領において、書写ではどのようなことが重視されているのか。

新井指導主事　２点ある。

１点目は、先程申し上げた書写のねらいが達成できるよう、「毛筆と硬筆との関連的な指導の一層の工夫」である。毛筆で文字を正しく整えて書くことは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。書写では、毛筆書写の能力の育成で完結をしないよう工夫することが重要とされている。

２点目は、硬筆書写の能力向上のために、新学習指導要領から運筆能力の向上につながる指導を取り入れた点である。そのため、低学年から「水書用

筆」いわゆる「水筆」の使用も可能としている。「水書用筆」を用いた指導は、３年生から始まる毛筆書写への移行を円滑にすることにもつながる。

宿谷委員　「毛筆と硬筆との関連的な指導の一層の工夫」について、各教科書はいかがであったか説明をお願いしたい。

林専門委員　「毛筆と硬筆との関連的な指導」については、書写指導の基本であるので、概ねどの教科書も優れていた。その中でも、「日本文教出版」は、例えば、毛筆２時間ののち硬筆１時間と、毛筆と硬筆を関連させた学習の流れが明確であった。

菅原委員　「水書用筆」の扱いに関しては、どのような調査結果となったのか説明していただきたい。

林専門委員　「水書用筆」に関しても、他の筆記用具も含めた指導として、どの教科書も丁寧に取り扱っていた。

「学校図書」と「教育出版」「日本文教出版」は、資料面において分かりやすさ・見やすさ･使いやすさという点で評価できる。「光村図書」は水書用筆に限らず、書写の基本である姿勢・筆記用具の持ち方、運筆の動きについて系統的に指導できる内容となっており大変優れていた。

中田委員　川口市の児童の実態から、その他にどのような観点を重視して調査をしたのか説明をお願いしたい。

林専門委員　我が国の豊かな文字文化を継承・創造していくために、毛筆への慣れ親しみや経験が希薄になっていること、パソコン等での入力により、文字を正しく整えて書くことの大切さが伝わりにくくなっていることは、課題であると考える。そのため、「自分の文字に対して主体的・意欲的に課題意識をもてるようになっていること」「日常の学習や生活を具体的にイメージして、筆記用具や書き方を判断して書く学習となっているか」「限られた時間内で効率的に学習できるか」についても重視した。

中田委員　そのことについて、調査結果では、どのようなものであったか教えていただきたい。

林専門委員　「東京書籍」と「教育出版」は、主体性や意欲の喚起に関して工夫が見られた。「光村図書」は、文字を正しく整えて書く上での基礎となる知識・技能が身に付く配列と工夫が見られる。そして、主体性や意欲の喚起とともに「この目的だから、この筆記用具を使って、書き方は、この点に気をつける」というように指導が一層明確になるような工夫があり、大変優れていた。このような工夫は、書写の時間に養った能力を日常の学習や生活に積極的に活かすことにつながる。

茂呂教育長　国語と同様になるが、総評して、調査員会としては、本市の児童の書写の能力向上のために、どの教科書を推薦するのか改めて伺う。

林専門委員　調査員会としては、毛筆と硬筆との関連的な指導ができること、日常の学習や生活へのつながりが図れること、自分の文字に課題意識をもたせ、丁寧

な技能指導ができることから「光村図書」の教科書が最適であると考えた。指導する教師にとっては使いやすく、教科書を使用する児童にとっては、イメージしやすく、わかりやすい教科書であると考える。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

他になければ、協議を終わる。

これより採択に入るが、よろしいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　それでは、小学校国語及び書写の教科書を決定していきたいと思う。国語について、何か意見はあるか。

菅原委員　川口の子どものことを考えて、学習の見通しがもてる点や教材の質などを総合して考えると、光村がよいと思う。

宿谷委員　光村がよい。内容が具体的で充実している。

齋藤委員　光村がよい。自分が子どもなら使いたいし、子どもの親であれば使わせたい内容である。

中田委員　光村がよい。子どもが使いやすく、教師が教えやすいと考える。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校国語は光村図書を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　書写についてはいかがか。

菅原委員　国語の文字指導との関連、子どもや教師の使いやすさを考えると光村がよい。

宿谷委員　国語との関連性などを考えると光村がよい。

齋藤委員　光村がよい。なぜ文字をきちんと書かなければいけないか、そのために何に注意したらよいか、わかりやすく書かれている。

中田委員　光村がよい。書く機会が少なくなっている中、わかりやすく指導できる。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校書写も光村図書を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校国語・書写についての協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　次に、社会・地図に移る。

それでは、小学校社会・地図専門委員・事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しや

すい」という観点でよりよい教科書を選んでいく考えである。

そこで専門委員に入室をお願いした。小学校社会の教科書について、専門委員会の調査、分析の内容等について、説明いただいた上で、質問をさせていただく。社会の後で、引き続き地図について改めて説明をお願いする。

それでは報告をお願いする。

土橋専門委員　小学校社会科の教科書は東京書籍、教育出版、日本文教出版の合計３社である。調査員会では、小学校社会科の学習指導要領の目標である社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す」ことを踏まえ、調査・研究をしてきた。

調査員会の報告書を基に、それぞれの教科書のよさや特長について述べさせていただく。

東京書籍は、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」「ひろげる」という学習の進め方が具体的に丁寧に示されており、単元を通した問題解決的な学習の展開がなされている。また、多くのページにあるドラえもんマークのコメントは、「社会的な見方・考え方」に基づいた示唆をしており、親しみを持って「社会的な見方・考え方」を育むことができる構成となっている。６年生の政治・国際編においては、川口市の事例が取り上げられており、政治をより身近に感じることができ、主権者教育の視点からみたよさも兼ね備えている。

教育出版は、学年のはじめに「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という学習の進め方が示されており、基本的な社会科の学習の流れがわかりやすく示されている。また、キャラクターの吹き出しにより、様々な話し合いの様子や考え方を示して、子どもたちが多角的に考える支援がなされている。４年生では、埼玉県の見沼代用水の事例が取り上げられており、歴史を身近に感じることができると考えられる。

日本文教出版はページの見開きの側注に「本時のめあて」が示され、課題意識を持って学習に取り組むことができるように工夫されている。また、「見方・考え方コーナー」には「空間」「かんけい」といった社会的な見方・考え方が示されており、子どもにも教員にも意識しやすいよう構成されている。

以上、３社の教科書を比較し、川口市の児童によりふさわしい教科書は東京書籍であると考える。

東京書籍は問題解決的な学習の具体的な学習の流れが具体的に、丁寧に示されており、これまで学んできた川口市の児童及び教員にとっても、受け入れやい学習の流れで構成されている。また、社会的な見方・考え方につきましてもキャラクターを使って、多くのページで示されており、児童にとって大変学びやすい教科書になっていると考えられる。

茂呂教育長　　ただ今の報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　　川口市の児童や授業については、社会科としてどのような点が課題として挙げられるか。

向井指導主事　　川口市の児童の課題については、自らの力で課題を解決したり、まとめたりする力にまだ課題があると考えている。社会科については全国学テなどの調査はないが、その他の教科でも、説明したりまとめたりすることに課題が見られることから、同様の傾向があると考えられる。

また、授業としての課題は、昨年度川口市で開催された社会科の全国大会などの機会を通じ、社会科の授業のスタンダードについて、周知してきたが、まだ、講義型の授業行う教師も少なくなく、問題解決的な学習の流れがわかりやすく示されている教科書が必要だと考えている。

宿谷委員　　社会科の授業の流れとはどのようなものか。

向井指導主事　　社会科の問題解決的な学習の基本的な流れは、大きく「つかむ」「調べる」「まとめる」の３段階に分けられる。「つかむ」では、学習問題の設定や、学習の予想や計画を立てる活動を行う。「調べる」」では、「つかむ」で設定した学習問題を解決するための情報収集や考える活動が行われる。「まとめる」では、調べてきたことを活用して、学習問題の答えを考え、表現していく。さらに単元によっては、「いかす」「ひろげる」といった発展的な学習につなげていくこともある。

宿谷委員　　「社会的な見方・考え方」とは、どのようなものか。

向井指導主事　　「見方・考え方」については、以前の学習指導要領でも見られたものである。新学習指導要領では各教科において改めて重点的に取り上げられている。子どもたちが学びの中で習得した知識を活用したり、身につけた思考力を発揮したりしながら、深い学びにつなげていく過程で、物事を捉えたり考えたりするための視点や方法が各教科における「見方・考え方」となる。

その中で「社会的な見方・考え方」とは、例えば、どのような場所にあるかという位置や空間的な広がりを問う視点や、どのように変わってきたのかという時期や時間の経過の視点、また、どのような違いや共通点があるかなどという比較・分類する方法などが「社会的な見方・考え方」の例として挙げられる。

茂呂教育長　　今説明のあった「社会的な見方・考え方」は、教科書の中でどのように反映されているのか。

土橋専門委員　　「社会的な見方・考え方」は教科書等の資料を見るときの視点や、考え、選択・判断するときの方法である。そのため、その資料のどこに着目するとよいかなど、ポイントとなる視点などの形で示されている。

たとえば、東京書籍の一例を挙げると、３年生の教科書で、「福岡市の土地の使われ方」の地図の横に、ドラえもんが「工場は、なぜ海の近くに集まっているのかな」という空間的な広がりを問う視点に着目させる形で示されて

いる。

齋藤委員　　報告書に見られる「ＳＤＧｓ」とは何か。

土橋専門委員　　ＳＤＧｓとは、持続可能な開発目標と訳される。これは２００１年に策定されたミレニアム開発目標の後継として、２０１５年９月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」にて記載された２０１６年から２０３０年までの国際目標のことである。

３社の教科書とも、この「ＳＤＧｓ」を意識した単元が組み込まれており、自分たちの学習を生かして提言・発信する活動を通して、社会への参画を意識させている。また、このことによりグローバルな社会を児童に考えさせることが可能になると考える。

菅原委員　　表やグラフ、図表、地図などを見て考える社会科では、ユニバーサルデザインが大切だと思うが、各社の教科書にはどのように反映されているか。

土橋専門委員　　近年ではどの教科書でもユニバーサルデザインの考え方を教科書に取り入れる例が多くなっている。社会科の教科書では、３社ともにカラーユニバーサルデザインへの対応を行っており、色覚の個人差に配慮が見られる。

また、東京書籍と教育出版につきましては、本文などの字のフォントにユニバーサルデザインフォントを使用しており、弱視や読みに困難さがある学習障害の子どもにも読みやすい配慮がなされている。

茂呂教育長　　他にはいかがか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　引き続き、地図に移る。地図について報告をお願いする。

土橋専門委員　　小学校の地図帳については、新学習指導要領のもと、これまで第４学年からの給与だったものが、第３学年から給与されることとなり、その使いはじめである第３学年では、地図帳の内容構成を理解できるようにすることが大切になると考える。社会科の目標に加えこの視点も加味しながら、調査員会では検討を加えてきた。

それでは、それぞれの地図帳のよさや特徴について述べさせていただく。

小学校社会科の地図帳は帝国書院、東京書籍の２社である。

帝国書院は、３年生で初めて地図帳を使って学習する際にも、意欲的に取り組めるような「地図のやくそく」のコーナーが設けられている。また、クイズコーナーでは、楽しみながら社会的事象の見方・考え方の育成を図る内容となっている。

日本の貿易や産業などについても、見開きに地図、グラフ、表、写真が収められており、様々な資料を関連付けてみることができる工夫がされている。

全体的に、イラストや文字を大きくし、ユニバーサルデザインフォントの採用される、色覚特性への配慮がされているなど、「見やすさ」を追及した構成になっている。

東京書籍は、３年生からの使用を念頭に、冒頭部分にはイラストが多く使

用されている。どのページにもキャラクターの吹き出しで地図帳を活用する知識が掲載されており、注目しやすくしているのも工夫のひとつである。また、子どもの気づきを生むように写真やグラフ等がバランスよく配置されているのが特徴である。

人物や英語など教科横断的な情報も多く記載されており、様々な今日活用できることもポイントの一つである。

ユニバーサルデザインフォントやカラーバリアフリーに対応した色彩デザインも用いられ、配慮の必要な児童への対応も可能である。

以上、２社の教科書を比較し、川口市の児童によりふさわしい教科書は帝国書院であると考える。

帝国書院は、３年生から地図に親しみ活用することを重視した構成となっているほか、見開きに様々な資料を関連付けてみることができるような配置を行うなど、高学年になっても、より高度な社会的な見方・考え方を育成することのできる内容構成となっている。また、色覚特性や学習障害などの発達に課題のある児童にも配慮され、子ども達にとっても、教師にとっても使いやすい地図帳であると考える。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　なぜ、３年生から地図帳を活用するようになったのか。

向井指導主事　新学習指導要領では、高校で地理が必修科目「地理総合」となり、「地理空間情報リテラシー」の向上、グローバル化への対応などが求められるようになった。さらに、これまで以上に小・中・高のつながりが重視されるようになった結果、「地理情報リテラシー」を高める一環として、小学校での更なる地図帳の活用が求められるようになり、そこから第３学年での地図帳の活用の流れにつながっていったものと考えられる。

菅原委員　地図帳は４年間使うことになるが、選ぶ視点として紙の質や装丁などもこだわりたいと思うが、耐久性などに問題はないか。

土橋専門委員　２社の地図帳とも､紙の質や装丁などしっかりとしたつくりとなっており、４年間の使用に耐えうる地図帳となっていると考える。

中田委員　これまで３年生では、地図についてどのように扱ってきたのか。

向井指導主事　これまでの３年生は、地図帳がなかったため、副読本に載っている地図を資料として見る、年度当初に配布される白地図を使って、市の特徴などを知るという活動を行ってきた。そのため、身近な地域が地図の学習の中心となっていたといえる。今後は、給与された地図帳を有効的に活用して、自分たちの住む市と埼玉県の地理的な関係の押さえることなど、様々な場面で地図帳を活用して行くことが求められると考える。

茂呂教育長　地図帳を選ぶにあたっては、どのような点を重視するか。

土橋専門委員　地図帳の活用方法としては、授業の中の課題を解決するために、地図帳か

ら地理的な見方をもって、情報を抜き出すことが求められる。そのためには、まず目的とするものが見やすく取り上げられていることが大切であると考える。その中で、配色やグラフやイラストなどの資料がバランスよく配置されていることが、地図帳を選ぶ上での重要な視点であると考える。

宿谷委員　日本の領土に関しては、地図帳でもしっかりと扱っているか。

土橋専門委員　２社の地図帳とも、日本の領土について、特に竹島、尖閣諸島の領有権についてしっかりと記載がなされており、学習指導要領の内容を満たしていると考える。

茂呂教育長　他にはいかがか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校社会及び地図の教科書を決定していきたいと思う。まず、社会について何か意見はあるか。

菅原委員　個人的には教育出版も工夫していると思う。去年、社会の全国発表が川口であって、スタンダードが根付いてきている中、このまま東京書籍で継続して社会の課題を克服する方がよい。

宿谷委員　どのジャンルも満遍なく丁寧である。東京書籍がよい。

齋藤委員　総合すると東京書籍。キャラクターの採用など、子どもたちにインパクトを与え、興味をもたせ、読んでみよう、読み進めようと思わせられる。

中田委員　東京書籍、教育出版ともによいと思うが、斎藤委員同様、上手にキャラクターを使って読みやすくなっていると思うので、東京書籍がよい。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校社会は東京書籍を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　地図についてはいかがか。

菅原委員　装丁にこだわったが、帝国書院の方が少し特殊な紙を使っているように感じる。発色も帝国書院の方がよいと個人的には感じる。

齋藤委員　帝国書院はコンパクトにまとまっているのが印象的。しっかり見られる。

中田委員　資料がバランスよくあるので帝国書院がよい。

宿谷委員　資料が豊富でわかりやすいの一語に尽きる。帝国書院がよい。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校地図は帝国書院を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校社会・地図について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　それでは、次に算数に移る。小学校算数、専門委員・事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校　算数の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

中河専門委員　　来年度も東京書籍の教科書を使用することを調査員会では推薦する。調査員会では、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、前回の調査報告書を参考に内容を精査し、川口市の児童の実態と教師の指導力の実態を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

算数においては、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象の中に数学的な問題を見出し、数量や図形に着目して、論理的・統合的・発展的に考え、数学的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てることが求められている。そのためには、算数の授業を通じて、自ら意欲的に問題に取り組み、友達との関わりの中で考え方や方法を共有・拡充し、問題に対する最適解・最善解に自らの力でたどり着く問題解決能力の向上が必要不可欠であると考える。

その点を考慮したとき、東京書籍が優れている点の１点目として、問題解決のプロセスが丁寧に示されている点が挙げられる。教科書を使用する児童にとって多様な考え方や表現方法が記載されており、学習の手順や言語活動の具体例が明示されていることで、基礎・基本の内容の理解が深まるよう構成されている。

２点目として､問題の難易度や量のバランスがよいという点が挙げられる。児童の思考に添った扱い易い数から徐々にスモールステップで難易度を上げていき、補充問題で２段階の難易度が設定され、個の習熟に応じた質と量の問題で習熟を図るようになっている点は、習熟差の大きな本市の児童の実態に適していると考える。

３点目として、１年生の準備用教科書をはじめ､具体操作や図による思考・表現の過程が可視化・操作化しやすい工夫が見られる点が挙げられる。個の習熟に応じて教科書を活用すれば自力解決が図られる構成は、授業や家庭学習でも多いに活用できる点で優れていると考える。

以上である。

茂呂教育長　　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

宿谷委員　　昨年度まで東京書籍だったが、川口市では、これまで他社を採択したことはあったか。

小堀指導主事　平成８年度から１１年度は、学校図書を使用していたが、それ以外は東京書籍であった。

宿谷委員　今回も調査員会、学校ともに東京書籍がよいという報告のようだが、東京書籍が優れている点はどこか。

中河専門委員　教科書の構成が問題解決的な学習の流れになっており、児童にとっても学びやすく、教師にとっても指導しやすいこと。

基礎基本の学習内容の意味理解を図るために、解決方法が言葉や図、絵等で丁寧に説明されており、数学的活動を重視した内容になっていること。特に１年生の入門期教科書は、半具体物の操作活動を想定したつくりで、児童・教師の両方の立場をよく考えられてつくられている。

図や式などを用いて考えをノートに書き表す例が示されていたり、そこから話し合い・発表へとつながる構成になっていたりと、児童が思考力・表現力を伸張できるよう配慮されていること、が挙げられる。

宿谷委員　県内の他の地区の採択状況はどうなっているか。

小堀指導主事　平成３１年４月現在使用している教科書は、２５採択地区中２３地区が東京書籍、２地区が啓林館である。

菅原委員　算数は、県や全国の学力学習状況調査も行う教科だが、現在の川口市の算数の課題は何か。

小堀指導主事　これまで各学力調査において、領域ごとの正答率を比較すると、国や県の平均をやや下回る項目も多かった。本年度は、国の調査では全ての領域で県平均を上回り、県の調査でも３つの学年で概ね１ポイント差以内の正答率であったことから、県同等の学力であったと捉えている。各学校の基礎基本の定着を中心とした授業改善が、少しずつ成果となって現れてきていると考えている。

具体的には、「量と測定」領域と記述式の問題形式の正答率がやや低く、実際の生活の中で算数を振り返ることや、自分の考えを数学的な表現でアウトプットすることが、本市の児童の課題となっていると考える。

菅原委員　今挙げられた課題を踏まえ、採択にあたって重視したい点はどこか。

中河専門委員　これまでの本教科書による指導が着実に成果に繋がってきていることから、従来通り観点１①の「基礎的・基本的な知識の理解」の徹底と新しい学習指導要領の内容を重視した観点２③「数学的な見方・考え方」、また、本市の課題解消に向けて観点３⑧「数学的な表現活動」という３つの観点が特に重要だと考える。

中田委員　今説明していただいたが、基礎的・基本的な知識・技能の定着には、どのようなことが大切か。

中河専門委員　習熟を図る上でも、計算や数の仕組みなどの意味を理解した上で問題を解くことが重要になる。絵や図を使って立式や説明ができる授業展開が必要である。また、授業の指導過程において学習内容の振り返りの時間を確保する

ことが重要であると考える。

中田委員　基礎的・基本的な知識・技能の習得という点で、問題量が重要だと思うが、各社を比較するとどうか。

中河専門委員　巻末の復習・発展のページを６年で比較する。

東京書籍２３ページ、大日本図書１２ページ、学校図書１８ページ、教育出版１９ページ、啓林館２６ページ、日本文教出版２８ページで、東京書籍が適量であると考える。

中田委員　算数が苦手な児童をはじめ、支援を必要とする児童への配慮という点ではどうか。

中河専門委員　算数が苦手な児童への配慮については、東京書籍は１時間の課題とまとめが明確で、写真やイラストが効果的に配置され、既習事項との関連や系統性に配慮されている。ユニバーサルデザインの視点から、書体を変えて読みやすいつくりである。色覚に関わるページも配慮がある。

齋藤委員　問題解決的な学習は大事だと思うが、算数の授業の流れでは、どのようになっているか。

中河専門委員　問題の理解、課題設定、自力解決、グループや全体で練り上げ皆でよりよい解決方法を検討、課題に対するまとめ、適用問題、最後に振り返りが一般的である。

茂呂教育長　川口は、毎年初任者が百数十名採用されて、市内には若手教師が多い。若い教師が指導しやすいという視点でも研究されていると思うが、どう捉えているか。

中河専門委員　教科書の構成自体が問題解決的な学習の流れとなっているという点では、どの会社も適切である。しかし、４５分の授業の中で指導を完結するためには、量と質のバランスや難易度を考えると東京書籍が扱い易いと考える。

齋藤委員　プログラミング学習も算数にも新たに入ると思うが、プログラミング教育が指導しやすいのはどの教科書か。

中河専門委員　新学習指導要領の改訂の一つにプログラミング教育の必要性がうたわれている。どの教科書もデジタルコンテンツを活用して、コンピュータを使った「プログラミング体験」をしながら論理的思考力を身に付けるための学習活動が展開できるようになっている。具体例として、ＩＣＴを利用して図形の作図、公倍数の求め方、代表値を求める場面などが挙げられると思う。

茂呂教育長　事務局に伺うが、新学習指導要領では「数学的な」という言葉がある。本市では、中学校の教科書は啓林館で、小学校でもそれなりの評価で報告されているが、小中学校で同じ教科書会社の方がよいのか。

小堀指導主事　小中学校の教科書会社が違っても、指導過程上、どの教科書でも問題はない。難易度的なものを考えると、揃えた方がよいという考え方もあるかと思う。

茂呂教育長　他にはいかがか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　それでは、小学校算数の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校算数は東京書籍を採択することに決定してよいか。

各委員　　（異議なし）

茂呂教育長　　以上で、小学校算数について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

【休会】

茂呂教育長　　これで、休憩のため、暫時休会とする。１０分程度。

【再開】

茂呂教育長　　それでは、日程第６の議事を再開する。

小学校理科、専門委員・事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校理科の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

久保田専門委員　新学習指導要領理科の目標は、「理科の見方や考え方」を育成することを重要な目標として位置づけている。このことを踏まえ、今回の改訂では、子どもたちに育むべき資質能力を「知識・技能の定着」、「思考力・判断力・表現力等」そして、「学びに向かう力・人間性等」とし、この３つを柱に目標を整理している。

川口市の子どもたちは、全国の子どもたちと比べ、理科の学習は小学校中学年では好きと答える児童は多くいますが、学年が上がるに連れ、理科を「好き」という子どもは減少し、「将来、役に立つ、楽しいと回答する子どもが少ない」という現状を改善する必要がある。

このため、観察・実験を中心とした探究の過程を通じて、自ら課題を解決したり、新たな課題を発見したりする学習を可能な限り、学んでいくことが大切である。

このことが、理科の面白さや理科の有用性を認識したりすることにつながっていくと考える。

このことを踏まえ、専門委員会では、①これからの時代に共通に求められる力として、問題解決の能力をより一層子どもたちに育むこと　②観察・実験の結果などを整理・分析したうえで、それをもとに解釈・考察・説明できる資質能力を育むこと　を踏まえ５つの教科書会社を調査した。

５社ともに、新しい学習指導要領の目指す、３つの資質・能力である「知識・理解」「思考力・表現力」「学びに向かう力」の３つの柱に沿った構成となっている。その中でも、特に、専門委員会では、現在使用している大日本図書及び教育出版の２社がよいという結果となった。そして、初めて教壇に立った教師、理科の苦手な教師でも、問題解決の流れがより明確に示されている教科書、実験観察の技能が高められるという視点で大日本図書が最終的によいという結果となった。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　今の説明の冒頭にあった「理科の見方・考え方」とは具体的にどのようなものをいうのか。

川島指導主事　理科の見方や考え方とは、エネルギー・粒子・生命・地球といった各領域における自然の事物・現象を捉える視点や考え方のことを言う。

具体的には量的・関係的な視点で捉えること、質的・実体的な視点で捉えること、多様性・共通性の視点で捉えること、時間的・空間的な視点で捉える視点が大切となる。

中田委員　川口市の児童の実態や課題とともに、報告にあったように、学年が上がるに連れ、理科を「好き」という子どもは減少し、「将来、役に立つ、楽しいと回答する子どもが少ない」という現状が起こるのは、なぜであると考えるか。

川島指導主事　本市の児童の課題として、大きく２点挙げられる。

まず、知識・理解、技能の定着に大きな差がみられること。２点目に、探究活動をするために必要な思考力・判断力・表現力の育成が十分でないことと捉えている。

知識・技能を活用し、理解・考察、説明する活動が大切である。学年が上がるにつれて、ネガティブな回答が増える要因としては、学習する内容が高度になるとともに、自らの考えを表現・考察することに苦手意識が見られることが挙げられる。ここを今後、克服していきたいと考える。

齋藤委員　今、話に出たが、理科における探究活動の過程とは何か。

久保田専門委員　理科における探究活動の過程とは、大きく分けて３つある。

１つ目は、児童が、自然の事物・現象に触れ合う中で、進んで興味・関心を抱き、問題や課題を発見し、疑問を持つこと。

２つ目は、その課題を解決するために予想や仮説を立て、実験方法を考え、進んで観察、実験などを行うこと。

３つ目にその実験観察結果を整理・分析し、考察したことを相互に話し合

う中で、結論を導く一連の学習の過程を言う。

最終的には、このことを通して科学的な見方や考え方を育むことをねらいとしている。

齋藤委員　問題解決の能力には個人差もあると思うが、その能力を引き出して、より一層育む授業の流れとは、どんなものか。

久保田専門委員　身近な体験を通した自然事象との出会いから、問題や課題の設定、根拠に基づいた予想・仮説、実験観察の計画の構想、実験・観察、結果、考察やわかったこと、まとめ、振り返りという授業の流れだと考える。

いずれも児童が、興味関心を抱きながら自分の問題として、進んで解決する力を育んでいくことが大切である。

宿谷委員　観察・実験の結果などを整理・分析したうえで、それをもとに解釈・考察・説明できる資質能力を育むためには、具体的に教科書のどのような観点を見ればよいのか。

久保田専門委員　大きくは２つの観点で見た。

１つ目は、探究活動の課程を重視するとともに、思考するための手立てや問いを効果的に使われているところ。

２つ目は、結果や考察を安易に提示せず、児童に多面的に考えさせる構成になっているところを、選考した観点とした。

菅原委員　視点を川口市の児童の実態や課題に戻すが、児童にとって、よりよい教科書は、特に、報告書のどの観点を重視すべきと考えているか。

久保田専門委員　この課題を踏まえて、理科に関する６つの視点から特に２点　「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「問題解決の力を養う」の２つの観点を重視すべきであると考える。

茂呂教育長　校長の報告書でも、調査員会の報告書でも大日本図書が最もよいと評価されているが、その良さについて端的にまとめるとしたら、どのようなことか。改めて説明をお願いする。

久保田専門委員　主な理由としまして、３つの点が挙げられる。

１つ目は、新しい学習指導要領の目指す、３つの資質・能力である「知識・理解」「思考力・表現力」「学びに向かう力」に沿った問題解決の活動を重視した構成になっており、児童が主体的に学べる流れになっていること。

２つ目に、観察・実験方法がわかりやすく、児童が活動するだけでなく、指導する教師にも見通しがもてる構成となっている。

３つ目に、ひとつひとつの実験観察の仕方が丁寧で分かり易いことから、児童にとっては理解しやすい、しかも安全面に配慮された教科書であり、教師側にとっても扱いやすい教科書になっていることが挙げられる。

茂呂教育長　他にはいかがか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校理科の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあ

るか。

菅原委員　川口の子どもたちの実態を高める視点から、２つの視点で見て大日本を推す。実験器具の扱いや教科書のサイズ感も含めてそう考える。

宿谷委員　大日本がよい。３つの資質・能力を児童が主体的に学べる。

齋藤委員　観察、実験方法がわかりやすく、興味をもたせやすい構成になっているので、大日本がよい。

中田委員　大日本がよい。川口の子どもの実態に合っていると思う。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校理科は大日本図書を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校理科について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　引き続き、生活に移る。小学校生活、専門委員・事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校生活の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

三好専門委員　本市の児童に、自立し生活を豊かにしていく力を育てるには、児童が学習対象を自分との関わりで捉え、主体的に思考し、表現する、「思考力、判断力、表現力の基礎」を育むことが大切である。そのため、日々の授業においては、児童の思いや願いを生かした充実した体験や活動を通して、思考し、表現することを繰り返し、気付きの質を高めていく学習を積み重ねていくことが必要であると考える。

そこで、調査員会では、光村図書の教科書を推薦する。

光村図書の教科書は、体験活動と表現活動が繰り返し行われるように示され、児童が活動を振り返ることで気付きの質が高まるように工夫されており、児童の主体的な学びを促す構成になっていると考える。

具体的には、単元ごとに必要な知識や技能が身につくような内容が適切に盛り込まれており、特に、安全への意識が定着するようになっている。また、児童の楽しそうな活動写真や活動例の絵などが多くあり、特に遊びの工夫の単元では、児童が興味・関心をもって活動することができる構成になっている等、児童の意欲につながるような表記・表現になっている。さらに、写真

と絵と文字とのバランスもとれており、特に生き物の単元では生命力を感じる写真が使用されている。

加えて、児童のつぶやきやカード例が複数示されており、児童が表現する上での視点となっていることに加えて、ホップ、ステップ、ジャンプと発展的に学びを深める構成になっており、具体的な活動や体験を促し、気付きの質を高める工夫がされている。

以上のことから、光村図書の教科書は、充実した学習活動を展開し、児童にとって使用しやすく、教師にとっては、気付きの質を高めるための指導を支える教科書であると考える。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

宿谷委員　生活科の教科目標は何か。また、生活科における川口市の子供たちの課題は何か。

菊地指導主事　生活科の目標は、「身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成すること」にある。

本市の子供たちについては、学習対象となる、自分自身、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、思考し、表現することや対象に自ら働きかけ、生活を豊かにしようとする態度に課題があると捉えている。

宿谷委員　その課題を克服するために重視する教科書の観点は何か。

菊地指導主事　「思考力、判断力、表現力等の育成」と「学びに向かう力」の観点を重視する。

「思考力、判断力、表現力等の育成」について具体的には、対象を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えることができるように、活動を振り返ったり、日常生活と結びつけて考えたりできるような工夫がなされているかを踏まえる。

「学びに向かう力」について具体的には、対象に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぶことができ、生活を豊かにしようとする態度を養うための、学びを深める工夫がなされているかを踏まえる。

宿谷委員　川口市の子供たちの課題をどのように克服し、育成していくのか。

菊地指導主事　１つ目に、児童の思いや願いを大切にした「豊かな活動や体験」と「多様な表現活動」を相互に繰り返す単元の構成を工夫すること。

２つ目に、「活動や体験」と「表現活動」の中で得られた児童の個々の気付きを教師が見取り、意味付け、価値付け、方向付けを行う中で、気付きの質を高めていくこと。

３つ目に、児童が気付きを伝え合い、交流する活動の中で気付きの質を高めていくこと。

以上のことを中心に、気付きの質を高めていくことで、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育んでまいりたいと考えている。

中田委員　生活科における「気付き」とは何か。また「気付きの質を高める」ために

どのような学習活動を行うのか。

三好専門委員　「気付き」とは、対象（ひと・もの・こと）に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。

生活科では一方的に教えるのではなく、活動や体験したことを、言葉、絵、動作、劇化などの多様な方法で表現しながら振り返り、考えることによって、新たな気付きや関連的な気付きを生み出す。

「気付きの質を高める」とは、無自覚だった気付きが自覚化されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連付けられたり、対象のみならず、自分自身への気付きが生まれたりすることである。気付きの質を高めるため、試行錯誤や繰り返す活動、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動、伝え合い、交流する活動等を行っていく。

中田委員　「伝え合い、交流する活動」とあったが、その中で、どのように「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」を育成するのか。

三好専門委員　教師が児童の気付きや発見を見取り、「伝え合い、交流する活動」の中で、問い返したり、黒板に気付きを位置づけたりしながら、個々の気付きを関連付けていくことを通して育成していく。

教師がファシリテーターとなり、気付きを関連付けることで、児童が友達との相違点を見付け、そこで、納得したり、疑問をもったり、理由を考えたりする中で対象を自分との関わりで捉え、思考していくようになる。そして、新たな活動を生み出していく「思考」と「表現」を繰り返すことで育成していく。

齋藤委員　生活科に関する、川口市の教師の授業の実態はどうなっているか。

三好専門委員　教科書に体験活動と表現活動が繰り返し行われるような学習過程が明示され、活動が広がるような発展的な構成になっているということもあり、思考と表現を繰り返しながら気付きの質を高めるという意識はだいぶ浸透している。

今後、その充実を図るべく、「教師が児童の気付きを見取り、気付きを伝えたり、交流したりする場において、個々の気付きをつなげ、深めるための指導を充実させること」「主体的に学習対象に働きかけ、意欲や自信をもって学ぶことができるよう、学校や地域の特性、児童の実態を生かした指導計画の活用、改善を図ること」が課題であると考える。

齋藤委員　生活科の教科書はどのように使っているのか。

三好専門委員　生活科は、学校や地域の特性、児童の実態を生かして指導計画を作成し、展開していく教科である。教科書を教える、あるいは教科書で学習する、という使い方はなじまない。

教科書の活用として、子供たちに活動のイメージをもたせたり、教師が多様な活動例を参考にしたりできるよさがある。児童が、社会や自然、人々の生活の様子の変化などに気付くヒントとして使うことも考えられる。

また、教科書の中の子供たちの写真に目を向けることで、感動したり驚いたり、共感する喜びを感じたりすることもできる。教科書は児童の好奇心を刺激し、意欲を喚起し、想像力をかき立てる材料となる。

齋藤委員　見本が７社しかないが、見本本がない信州教育出版の教科書の特徴はどんなところか。

三好専門委員　信州教育出版のホームページにおいて、教科書の内容解説資料及び、編集趣意書を確認した。家族や友達、地域の人々など、子供にとって身近な人々との関わりや支え合いの場面に重点を置き、自分の在り方に気付くことができるような構成になっているところに特徴がある。

菅原委員　東京書籍は他社より大きめのつくりになっているが、何か特徴があるか調べたか。

三好専門委員　東京書籍は、最も大判の紙面となっており、ユニバーサルデザインのフォントを使用するなど、児童の発達の段階を考慮した表記・表現になっている。また、ルールや道具の安全な使い方、衛生面について具体例が示されており、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための資料が充実している。

茂呂教育長　生活科は、学校や地域の特性、児童の実態を生かして指導計画を作成し、展開していく教科であり、教科書を教える、あるいは教科書で学習するというのではないという説明があったが、課題である、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の観点から見て、優れている教科書について改めて伺いたい。

三好専門委員　光村図書である。

「思考力・判断力・表現力」の観点から、どの単元も体験と表現が相互に位置づけられており、体験したことから自分自身や自分の生活について考えることができるようになっている。また、児童が学習するときの手がかりやヒントがあり、自ら考えられるような投げかけがある。

「学びに向かう力」の観点から、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の３段階で学びを深める構成になっており、単元の終盤の「ジャンプ」のページには、児童が自分の成長を実感できるような工夫がなされている。また、新たな活動を引き出すような活動例も示されており、生活を豊かにしようとする態度を養う工夫もされている。併せて、活動をする上で、児童に考えさせたい内容や働きかけの方法が示されており、学びに向かう力を育成するための工夫がなされている。

茂呂教育長　その点で、調査員が光村図書を最適であると報告した理由はどんな点か。

三好専門委員　１点目として、児童が自ら対象に働きかけ、活動に広がりをもたせられるような構成になっており、意欲をもって学ぶことができるような工夫がされ、学びに向かう力が育まれるようになっていること。

２点目として、それぞれの単元に、段階的で多様な学習活動が盛り込まれ、気付いたことをもとに考えたり、多様な方法で表現したりできるような工夫

がなされ、具体的な活動や体験を通して、気付きの質が高まるように工夫されていること。

３点目として、子供たち同士が交流している様子や気付きを伝え合い交流する様子など、具体的な活動や体験を促す資料が提示されていること

４点目として、子供の吹き出しの言葉や教師の投げかけの言葉が具体的で、気付きの質が高まるような表記・表現になっていること。

以上の４点を総合的に判断し、光村図書が最適であると報告した。

菅原委員　確認の意味で質問するが、自分で見て、調査員会からの報告と学校からの報告では、一番に推す教科書が光村となっているが、比べてみてどうなのか、改めて伺いたい。

三好専門委員　学校から挙げられた上位の教科書については、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるために、ルールや道具の安全な使い方などの具体例が示されていたり、具体的な活動や体験を促すための資料や内容の取り上げ方が児童の発達を踏まえたものになっていたり等、教師にとって教えやすいという観点では評価できる。

子供たちが体験したことから意欲を高め、自ら考え対象に働きかけ、活動を広げていく「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力」の育成という観点で評価していくと、調査員会が最適と報告した光村図書の方が児童に適した教科書であると考える。

菅原委員　方向性は異なるが、それぞれ光村ということでよいか。

三好専門委員　よい。

茂呂教育長　他にはいかがか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校生活の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

菅原委員　私は光村がよいと考える。

茂呂教育長　他にはいかがか。

各委員　なし。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校生活は光村図書を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校生活について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

【休会】

茂呂教育長　これで、休憩のため、暫時休会とする。

再開は午後１時からとする。

７　再開（午後１時）

茂呂教育長　　それでは、日程第６議事を再開する。

小学校音楽、専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考える。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校音楽の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

関口専門委員　　令和２年度から５年度使用の教科書として、教育芸術社を推薦する。

調査員会では、新学習指導要領「音楽科」における改訂の基本的な考え方や学習指導の改善・充実に係る内容、また、川口市の児童の実態と教師の指導力の実態等を踏まえて検討、精査した。詳細は報告書のとおりである。

音楽科においては、音楽に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することが求められている。そのためには、音楽の授業を通し、歌を歌う、楽器を演奏する、音楽を創る、音楽を聴くなどの活動を主体的に行うことや、児童相互の関わりの中で考え方や方法を共有することにより、学びを深めることが必要不可欠であると考える。

このような視点で精査した結果、教育芸術社を推薦する理由を３点申し上げる。

１点目。６年間を通して段階的・系統的に無理なく学習できるよう、題材が大変バランスよく構成されており、学習のめあてや目標等が各ページに具体的に示されていることで、児童にとって学びの見通しを持ちやすいこと、その上で基礎・基本の内容の理解が無理なく深まるよう構成されている。また、音楽専科担当教師のみならず、担任教師にとっても、授業の進め方、展開の在り方などがわかりやすい構成になっている。

２点目。歌唱、器楽、鑑賞の題材において、我が国の伝統音楽や世界の諸民族の音楽等についても、大変バランスよく、幅広く学べる内容となっている。特に我が国の伝統音楽に関しましては、児童の興味・関心や学ぶ意欲を高めるような写真や資料を豊富に掲載することで、日常生活においては触れる機会の少ない我が国の伝統音楽に対し、児童に親近感や愛着をもたせることができるよう工夫がなされている。

３点目。色覚の特性に配慮した配色がなされるなど、ユニバーサルデザインの視点を踏まえ、すべての児童にとって学びやすい配色やレイアウトの工

夫がなされていると考える。

このような点から、教育芸術社を推薦する。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　音楽の教科書について、県内の採択状況はどうなっているか。

三浦指導主事　２５採択地区のうち、さいたま市、上尾市の２地区が教育出版社、それ以外の２３地区が教育芸術社となっている。

中田委員　学習指導要領の目標にある、「音楽の見方、考え方を働かせる」とはどのようなことか。

三浦指導主事　学習指導要領解説「音楽」によると、音楽に対する見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化と関連付けること」と示されている。

宿谷委員　「音楽に対する感性」とは、どんなことか。

三浦指導主事　学習指導要領解説「音楽」によると、音楽的な刺激に対する反応や、音や音楽の美しさなどを感じ取るときの心の働きを意味していると示されている。

宿谷委員　学習指導要領の目標にある、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する」ことは、どのような意味があるのか。

三浦指導主事　学習指導要領解説「音楽」によると、生活や社会の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することによって、児童がそれらの音や音楽との関わりを自ら気付き、生活を豊かにすることや、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする、態度の素地となること。

また、心豊かな生活を営むことのできる人を育て、心豊かな生活を営むことのできる社会の実現に寄与するということが示されている。

茂呂教育長　音楽は２社だが、「教育出版」と「教育芸術社」、それぞれの特徴を簡潔に言うとどんなことか。

関口専門委員　「教育出版」は、教科書と資料集が一つになっているような構成で、児童の興味・関心を引く工夫が多く見られる。

「教育芸術社」は、６年間を通して段階的・系統的に無理なく学習できるよう、題材がバランスよく構成されている。

茂呂教育長　基礎的・基本的な知識・技能の習得に教育芸術社が優れているとのことだが、具体的にどのように優れているのか。

関口専門委員　一例をお示しする。教育芸術社６年生の４４～４６ページをご覧いただきたい。「ふるさと」の掲載ページとなっている。まず、４４ページ左上に学習の目標が記載されており、児童の授業への見通しが立ちやすくなっている。

また、４５ページでは、縦書きの歌詞とイメージ写真が用意され、曲想へのイメージや歌詞のまとまりが分かりやすい用になっていることで、抑揚を

つけたり、心を込めて歌えたりするような工夫がなされている。更に４６ページでは、対話的な活動への論点や、家族・地域の人も巻き込んだ授業が示されており、学習が深められるようになっている。

茂呂教育長　思考力・判断力・表現力等の育成習得に、教育芸術社が優れているとのことだが、具体的にはどのようなことか。

関口専門委員　一例をお示しする。教育芸術社４年生の５４、５５ページをご覧いただきたい。

フルートとクラリネットの音色を聴き比べることによって、それぞれの楽器の音色の特徴やよさを児童が実感できるような工夫がなされている。また、キャラクターによる吹き出し等で、思考・知識・技術を一体として考えるための工夫がなされている。

菅原委員　「我が国及び諸外国の音楽に関する学習の充実」に関して、教育芸術社が優れているとのことだが、具体的にはどのようなことか。

関口専門委員　教育芸術社では、６年間の学びにより、様々な分野の音楽を学べる楽曲が取り上げられている。また、児童にとってあまりなじみのない、和楽器や伝統音楽についても写真や資料を多く取り入れることで身近に感じ、我が国の音楽への愛着が生まれる工夫がされている。

一例をお示しすると、教育芸術社４年生の５６から５９ページをご覧いただきたい。箏や三味線、三線の写真や資料が多く取り入れられている。

菅原委員　器楽に関して、自分の捉えでは、どちらの出版社も優れていると思うが、その辺りはどうか。

関口専門委員　どちらも様々な楽器がバランスよく取り上げられている。両社ともに、古典から現代において、国内外の音楽を学ぶ機会を設けている。教育出版社は特に、諸外国の音楽を多岐にわたりとりいれている。

また、教育芸術社は多角的な学びを構築することができる扱いの工夫がなされている。

中田委員　教育出版社が、ダイナミックでインパクトのある美しい写真や資料で、児童の興味・関心を引く工夫が多く見られるとのことであったが、具体的にはどのようなことか。

関口専門委員　教育出版社の８ページをご覧いただきたい。「おぼろ月夜」のページだが、教育出版社の教科書は３ページに渡って見開きでの写真、資料があり、ここが、ダイナミックでインパクトあるというところである。

中田委員　教育芸術社の方が、ページ数が多いが、曲数などに何か違いはあるのか。

関口専門委員　１学年の教科書を例にご説明する。歌う曲数を見てみると、教育出版は４３曲、教育芸術社は３７曲ということで、教育出版社が若干多い状況である。教育芸術社は縮小せずに見やすくしているため、曲数が少なくともページ数は多くなっており、ページ数に差が出ていることについては、教育出版１の６４、６５ページ「どんな歌があるかな」が２ページ内に１０曲掲載してい

るためである。

中田委員　　ユニバーサルデザインの視点から、教育芸術社が優れているとのことだが、具体的にはどのようなことか。

関口専門委員　　平成２４年に実施された文部科学省の調査では、通常学級に発達障害等の可能性のある児童生徒が６．５％在籍していると言われており、埼玉はこれを超え、本市も例外ではない。このことからも、ユニバーサルデザインを、より配慮した教科書を選ぶ視点も大変重要であると捉えている。

教育芸術社は、各ページの配色や色覚の特性にも配慮し、すべての児童にとって学びやすい配色やレイアウトの工夫がなされているものと考える。

茂呂教育長　　他に質問はあるか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　それでは、小学校音楽の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

菅原委員　　教育芸術社がよい。

中田委員　　同様である。

齋藤委員　　興味をそそるようなものが沢山あるので、教育芸術社がよい。

茂呂教育長　　他にはよろしいか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校音楽は教育芸術社を採択することに決定してよいか。

各委員　　（異議なし）

茂呂教育長　　以上で、小学校音楽について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　　引き続き、図画工作に移る。

小学校図画工作、専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思いますが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校　図画工作の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

板橋専門委員　　来年度は日本文教出版の教科書を使用することを調査員会では推薦する。調査員会では、新しい学習指導要領を踏まえ、内容を精査し、川口市の児童の実態と教師の指導力の実態を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりで

ある。

図画工作科においては、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成することが求められている。そのためには、図画工作科の授業を通じて、造形的な視点を理解して、創造的につくったり表したりすること、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めること、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培うことが不可欠である。

その点を考慮したとき、日本文教出版が、優れている１点目として、表現と鑑賞の題材数や参考作品数が多く、発達の段階に応じて親しみやすい内容になっており、教師も児童も系統性を意識して取り組むことができると考える。

２点目として、各題材のページは見開き２ページで統一され、３つの資質・能力に対応したマークがあり、「学習のめあて」と「振り返り」が分かりやすい構成になっていること。見通しが持てるということは、児童の主体的な活動につながると考える。

３点目として、身近なものの美しさが際立つ写真を掲載するなど、児童の感性を刺激するものとなっており、造形的な見方や考え方について、生活や社会へ広がり、つながることを指導しやすい内容となっている。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　本市では、これまでどの会社の教科書を使用しているか。

新居指導主事　３０年以上、開隆堂を使用している。

中田委員　昨年度の県内の採択状況はどのようになっているか。

新居指導主事　第５採択地区、第１０採択地区、第１７採択地区が日本文教出版、その他の採択地区は開隆堂を使用している。

中田委員　図工の指導で重視することは、どのようなことか。

新居指導主事　表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方や考え方を働かせ、生活の中の色や形などと豊かに関わる資質・能力を育成することである。

宿谷委員　今の答えの最後に、「資質・能力」とあったが、図工で育成する資質・能力とはどのようなことか。

新居指導主事　３点ある。

１点目に、造形的な視点を理解して、創造的につくったり表したりできること。

２点目に、創造的に発想したり、作品などに対する自分の味方や感じ方を深めたりすること。

３点目に、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとすることである。

宿谷委員　造形的な見方や考え方とは、どのようなものか。

板橋専門委員　感性や想像力を働かせ、対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことである。

宿谷委員　本市の図画工作科では、どのようなことが課題になっているのか。

新居指導主事　児童一人一人の資質・能力を十分にのばすこと。形や色、イメージなどの「共通事項」をもとに、作品から感じたことを話すこと。作品のよさを伝え合うなど言語活動の充実をはかり、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことができるようにすることである。

齋藤委員　両方にそれほど差異はなさそうに思うが、題材の表現と鑑賞について、それぞれ多く紹介されているのはどちらの教科書か。

板橋専門委員　表現、鑑賞ともに題材数は、日文の方が多くなっている。日文は、表現と鑑賞を分けていて、発達の段階に応じて親しみやすい内容になっている。開隆堂は、鑑賞のページのあとで、関連した表現の題材が続く構成になっている。

齋藤委員　作品や図版印刷の鮮明さは、どちらがよいのか。

板橋専門委員　これは、どちらも同じように鮮明であると思う。

茂呂教育長　新学習指導要領の評価の視点について、それぞれの教科書ではどうなっているか説明をお願いしたい。

板橋専門委員　評価は題材ごとのめあてと直結するものである。このことから、日文は、各題材見開き２ページ構成で、３つの資質・能力に対応したマークとともに左ページに「学習のめあて」、右ページに「振り返り」という配置になっており、わかりやすいと言える。

開隆堂は、３つの資質・能力に対応した「学習のめあて」が最初のページに明示され、中心となるめあてが下線と文字色を変えて強調されている。

菅原委員　図工の指導で重視するものの質問の答えとして、「生活の中の色や形などと豊かに関わる工夫」とあったが、それがあるのはどちらか。

板橋専門委員　日文である。どちらも、日本の伝統文化や芸術家の作品を掲載することで、造形的な見方や考え方が、生活や社会へ広がり、つながることを指導しやすいが、日文は、時計や土など、身近なものの美しさが際立つ写真を掲載するなど、児童の感性を刺激するものとなっている。

茂呂教育長　学校からの報告は、今まで長年使っていた開隆堂を推す方が強いと思うが、調査員会では日文である。それをどう受け止めるか、お答え願えるか。

板橋専門委員　どちらもよさがある中で、調査員会ではわずかでも日文の方がよいとなった。川口の子どもの様子や教師の指導の様子などから、また、新学習指導要領の内容を指導するにあたり、日文の方がよいと思う。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校図画工作の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

中田委員　　専門委員の話だと日文の方がよいということだが、どちらでもという気持ちもある。しかし、日文の方がよい。

齋藤委員　　日文。身近なものを題材にしているということ。

宿谷委員　　日文。土など身近なものを扱っている。児童の感性を刺激する。

菅原委員　　私は開隆堂の方がよいかと。現場で培ってきた流れから、教師の負担も考えて、新たなものより今と同じ会社でもよいかと思う。

茂呂教育長　　新学習指導要領のねらいを考えて、感性や想像力は、そのものは見えないが学ぶ中で育てるということから考えたい。例えば、日文１年の「チョキチョキかざり」と比べて、開隆堂の方がインパクトが強い。強いと真似をし、それを作ればよいと思ってしまう。日文は作るための過程のヒントを載せている。指導者側もそのような流れになっている。新学習指導要領に沿うと日文がよいと考える。

茂呂教育長　　菅原委員は開隆堂とおっしゃっていたが、専門委員の説明も踏まえ、各委員のご意見から小学校図画工作は日本文教出版を採択することに決定してよいか。

各委員　　（異議なし）

茂呂教育長　　以上で、小学校図画工作について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　　引き続き小学校家庭に移る。専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校家庭の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

井上専門委員　　本市の児童に、変化に富んだこれからの社会を生きるために必要な、生きる力を育てるには、小学校５年生からはじまる家庭科の学習において、生活の中で教科の見方・考え方を働かせ，衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して，生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の育成が求められている。そのため、日々の授業においては、子供たちの実態に即した、分かりやすい教科書であることが最も重要であると考えている。

結論から申し上げて、調査の結果、東京書籍の教科書が、題材が魅力的で、写真やイラストが多く活用され、説明も丁寧で、児童にとっても、また教師にとっても扱いやすく、学習が展開しやすい構成になっていると考えている。

まず、家庭科のガイダンスページにおいて、これまでの学習と関連させながら家庭科とはどのような教科か、また家庭科を学ぶ意義がわかりやすく示されている。そして、「こんなことができるようになりたい！」といった児童のやる気を引き出すと同時にこれからの学習の見通しをもたせることができる点が優れている。

また、今回の学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、各題材においてどの視点を重視して学習するかが一目でわかるようになっている。さらに、児童が取り組んでみたい、やってみたいと思えるような実習例が豊富であり、楽しみながら基礎的・基本的な技能を身に付けられる題材構成となっている。そして、巻末資料には、実寸大の写真が掲載されており、困ったときはいつでも開いて確認できることも生活経験の少ない児童にとって大変分かりやすくなっていることが特筆すべき点である。また、今回新設された「家族・家庭生活についての課題と実践」においては、児童が家庭で実践する際の課題発見の際のヒントとなる課題例が多いことも扱いやすい教科書であると考える。

一方、現在使用している開隆堂においては、基礎基本の内容が丁寧でわかりやすいこと、どの題材も３つのステップで構成されていること、ＱＲコードが掲載され、動画の資料をいつでもみられることなど特筆すべき点であると考える。

以上のことから、東京書籍の教科書は、本市の児童の実態にあった教科書であると考える。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。

家庭科においては、教科書は２社のみだが、開隆堂と東京書籍との大きな違いは、わかりやすく言うとどんな点か。

井上専門委員　どちらも学習指導要領改訂の趣旨に基づく､改訂の要点が記載されている。

特に開隆堂は基礎・基本の定着を重視し、実践例が豊富に示されている。

東京書籍は、掲載されている資料やデータが大変豊富で、調べ学習にも適しており、各題材の冒頭に考える視点が示されている。また、実習場面での評価のポイントも具体的で、子供たちはもちろんのこと教師にとっても目指すべきゴールが明確で分かりやすいなど、様々な改善や工夫点が見られる。

茂呂教育長　それは、家庭科専科の教師でなくても教えやすいと捉えたということか。

井上専門委員　その通りである。

宿谷委員　本市の小学校家庭科では、どのようなことが課題になっているか。

井上専門委員　社会の変化や少子高齢化、生活環境の変化、核家族化など、家庭の機能が十分に果たされていない状況から、生活経験が少なくなっている。

変化に富んだこれからの社会を生きるために、習得した基礎的・基本的な知識及び技術を生活の中で活用しようとする実践的な態度を育むことが喫緊の課題である。

宿谷委員　　子どもたちが学びやすい家庭科の教科書とは、どのようなものか。

井上専門委員　経験が少ない児童が多いことから、写真や資料、説明が分かりやすいもの、児童の生活の実態に応じた内容のものが学びやすい教科書と言える。特に東京書籍は、実物大の写真を多く利用し、資料がとても充実しており、左利きが包丁を持つ場合の例も示されているなど、説明も丁寧で学びやすく、わかりやすくなっている。

中田委員　　家庭科を教えるには、専門性が高いことも求められるが、川口市の教師の実態について教えていただきたい。

藤田指導主事　小学校６年間で家庭科の授業を行うのは５年、６年の教師のみである。家庭科専科も少ない中、全ての教師が家庭科の授業を行うわけではないので、初めて家庭科を受け持つ教師や、臨任の教師も多くいる。

齋藤委員　　学校から提出された報告書と調査員から提出された報告書では、評価に違いがあるようだが、もう少し詳しく教えていただきたい。

井上専門委員　学校から提出されたもののうち、開隆堂が良い、と答えている学校は５２校中２６校であった。東京書籍が良いという学校は５２校中２２校で、残りの４校は開隆堂と東京書籍が同数であった。

このことから、２社に対する評価は、ほぼ半数に分かれていることが分かると思っている。

齋藤委員　　学校からの報告書で、開隆堂を推している主な理由としては、どんなことが考えられるか。

井上専門委員　川口市では長い期間にわたって開隆堂を使用してきた。今回、改訂されてはいるが、同じ写真や同じ調理例、被服製作例が掲載されるなど、経験が有る教師にとっては馴染みがあることから、開隆堂が選ばれていることも考えられると思う。

経験の浅い教師からは、東京書籍が分かりやすく、扱いやすく感じた、との報告も受けている。

茂呂教育長　　今の説明から、川口では長年、開隆堂であったのを思い切って違う教科書にするということであるなら、東京書籍が特に優れている点を改めて伺いたい。

井上専門委員　今回の改訂で、学習指導要領に示されたこの教科について、学ぶ意義や育みたい力、教科としての見方・考え方及びガイダンスにみられる２年間の学習の見通しなど、これまでの成長を振り返って山登りのように分かりやすく示していると思われる。また、成長の記録を学びの足跡として振り返れるようになっており、中学校に向けてよいと考える。

また、新設された内容について、具体的な取組例が分かりやすく示され、子ども達がやってみたい、チャレンジしたいと感じたり、実感を伴ったりできる学習展開や、学びの広がり、家庭での実践など、数多くの工夫が見られる。学習したことを家庭で実践する態度を育むことは先ほど述べた通り本市

の課題でもある。

これらのことから子どもたちだけでなく教師にとっても、本市の実態に十分対応できる、様々な視点からよく工夫され、考えられた優れた教科書であると考える。

菅原委員　それぞれの教科によって「見方・考え方」があるが、「家庭科の見方・考え方」とは具体的にどうか、確認したい。

井上専門委員　家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る家庭科の内容について、三つの教科の視点がある。

１つ目として、協力・協働、２つ目として、健康・快適・安全、３つ目として生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫するよう、示されている。

特に、１つ目の「協力・協働」は、「家族や地域の人々との協力」、３つ目の「生活文化の継承・創造」は、「生活文化の大切さに気付く」などである。

菅原委員　今までの話では、東京書籍のよさを示されていたが、「家庭科の見方・考え方」について、東京書籍ではどのように捉えているのか。

井上専門委員　東京書籍は、新学習指導要領で示された家庭科の見方・考え方を「家庭科の窓」として設定し、全ての題材の初めに丁寧に位置づけ、示されている。題材のスタートの場面でしっかりと見方・考え方を確認できることは、今回の改訂の趣旨として、とても重要であると捉えている。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校家庭の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

齋藤委員　具体的に見て、中学校やその先まで見据えた目標設定を自覚させるという点で、ニンジン・ジャガイモの切り方や利き手のことまで示してあり、びっくりした。独創的なプログラムも組み込んである。東京書籍がよいと思う。

中田委員　同様である。見やすく分かりやすい。

宿谷委員　開隆堂。長年使っているということで教えやすいと考える。

菅原委員　自分も開隆堂で教えてきたので、そういう目で見てきたが、例えば運針など、波縫いが大きく示されている。実は教師はできないことが多い。東京書籍の方が教えやすく使いやすいように改善されている。

茂呂教育長　宿谷委員は開隆堂だが、学習指導要領の目標に沿って、東京書籍がこれまでとかなり違って作成してきた。大きく改善してきたという印象である。子どもにとって分かりやすく、見て分かる。学校の報告では開隆堂の方が少し多かったが、これまでの協議や各委員のご意見から、小学校家庭は東京書籍を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校家庭について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　　これより暫時休憩とする。１０分程度。

茂呂教育長　　再開する。

小学校体育（保健）専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校　保健の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

川端専門委員　　体育科の保健は、「健康な生活」「体の発育・発達」「心の健康」「けがの防止」及び「病気の予防」について基礎的・基本的な内容を実践的に理解し、健康で安全な生活を営むための資質・能力を育成することを目標としておりる。これらの資質や能力を育成するためには、学んだことを単に知識や記憶としてとどめるだけでなく、児童が、身近な生活における学習課題を見付け、その解決に向けて、思考・判断するとともに、それらを表現するなどの過程を重視することが大切である。これが、健康に関する課題を自分ごととして捉え、解決に向けて試行錯誤しながら学習することにつながると考える。よって、今後使用する教科書で求められるのは、「①自分の身近な生活の場面を想像しやすい」「②児童の思考力・判断力・表現力を働かせやすい」「③今後の自分の生活に生かしやすい」ことと考えている。

各社の教科書については、報告書の通りである。

茂呂教育長　　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　　体育の中で、保健の授業時間数はどのくらい行われているのか。

石田指導主事　　体育自体は、１年が１０２時間、２年から４年が１０５時間、５・６年が９０時間ずつの配当となっている。

そのうち、保健の授業は３・４年で８時間程度、５・６年で１６時間程度を配当することになっている。川口市内の学校では、３年で４時間、４年で４時間、５年で８時間、６年で８時間配当している小学校が多い実態である。なお、１・２年生では保健の授業はない。

宿谷委員　　保健学習ではどのような内容を指導するのか。

石田指導主事　　３・４年は「健康な生活」「体の発育･発達」、５・６年は「心の健康」「けがの防止」「病気の予防」を指導する。

小学校では、身近な生活における健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を実践的に理解することを通して、健康で安全な生活を営むための資質・能力を育成することを目標としている。

齋藤委員　川口市の保健学習の実態や課題は何か。

石田指導主事　教師の実態としては、やはり若い教師が多いことが挙げられる。また、年間の授業時間数が少なく、良い授業実践を見る機会も少ないことから、すぐに答えを導き出すような授業が展開され、課題解決に向けた過程が重視されず、児童が思考・判断し、表現する経験が乏しい現状がある。

そのため、健康・安全に関しての思考力、判断力、表現力が身についていないことと、実践的な理解が得られていないことが課題として挙げられる。

中田委員　今の説明にあった、保健の学習における思考力、判断力、表現力とは具体的に何か。

川端専門委員　保健学習における「思考力・判断力・表現力」とは、児童が身近な健康課題に気付き、健康を保持増進するための情報を活用し、課題解決する力である。

具体的には、身近な健康課題に気付く力、健康課題に関する情報を集める力、健康課題の解決方法を予想し考える力、学んだことを自己の生活に生かす力、学んだことや健康に関する自分の考えを伝える力などがある。

中学年の「健康な生活」を例に申し上げると、１日の生活の仕方から課題を見つける活動、よりよい１日の生活の仕方を整えるための方法を考える活動、健康に過ごすために考えた方法を伝え合う活動などを行うことが大切となる。児童が思考判断し、表現することを繰り返すことで、思考力、判断力、表現力を育成することにつながる。

中田委員　「実践的に理解する」とは、具体的にどのようなことを言うのか。

川端専門委員　「実践的に理解する」とは、自分の目や耳で感じるものを生かしながら、生活経験と関連付けながら具体的に理解することである。そのためには、身近な生活における学習課題を発見し、解決する過程を通して、健康・安全の大切さに気付くように授業を仕組むことが大切だと考える。

菅原委員　今ご説明いただいた本市の実態や課題などを踏まえると、単刀直入にどの教科書がよいと考えるか。

川端専門委員　若い教師が多いということを考えると、学習の進め方が明確でわかりやすいことが重要と考える。また、児童が、身近な生活に対して課題を見付け、よりより方法を児童同士や教師とともに考え、今後の自分の生活に生かすといった一連の流れがわかりやすい教科書がよいと考える。

その点で、東京書籍は、学習の手順がステップ１から４とわかりやすく提示されているため、児童にとっても、教師にとっても、見通しを持ちやすくなっている。また、まとめでは、中学年は穴埋め形式、高学年は記述する部分があり、発達の段階に応じた「児童の思考を促すまとめ」を行うことが可

能であると考える。

菅原委員　視点を変えて、「実践的に理解しやすい」と考えると、どの教科書がよいと考えるか。

川端専門委員　東京書籍は、「体の発育・発達」において、赤ちゃんの手やくつのサイズの実寸が掲載されており、自分の成長を実感しやすくなっている。また、「けがの手当て」では、実習を行うためのページがあるので、実習を通して、実践的な理解を促すためには、活用しやすくなっている。

また、光文書院は、身近なデータや資料が多く掲載されているため、児童が「自分ごと」として実感しやすく、興味関心をもって学習することが可能であり、実践的な理解につながりやすいと考える。

茂呂教育長　本市はこれまで光文書院だったのだが、今の説明で東京書籍か光文書院だという考えが伝わってくるのだが、総合的に見てどの教科書がよいと考えるか。

川端専門委員　東京書籍か光文書院に絞られると考えるが、東京書籍がよいと考える。まず、東京書籍も光文書院も、学習すべき内容が焦点化され、授業の流れがわかりやすくなっている。

東京書籍は、より子供に思考を促す工夫がされていると考える。例えば、３・４年の３１ページ、男女の体つきの変化をクイズ形式で考えるページとなっているが、「どちらのシルエットが男子なのか」という答えは、ページをめくった次のページに掲載されているため、児童がすぐに答えを見つけるのではなく、児童の思考を促すような配列の工夫が見られる。

また、東京書籍５・６年の１６ページの「リラックス状態を体験しよう」や４４ページの「けがの手当てをしよう」では、実習の方法がわかりやすく提示されており、児童にとっても実感を伴った活動を行いやすいと考える。以上のことから、教師が授業を進めやすいこと、児童の思考力・判断力・表現力を育成しやすいことから考えると、東京書籍が、川口市にとってよりよい教科書であると考える。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校体育（保健）の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

中田委員　本市の実態、課題から考えて東京書籍がよい。

齋藤委員　身近な話題を分かりやすく系統的に指導できる点で東京書籍がよい。

宿谷委員　東京書籍。けがの手当てなど、実践的な理解ができる。

菅原委員　今まで光文書院だったが、学校の報告も調査員の報告も東京書籍である。使いやすい、よりよい方法を、話し合いながら自分の生活に生かしていこうという考えが示されている。

茂呂教育長　学校や調査員会の報告から、また、これまでの協議や各委員のご意見から、

小学校体育（保健）は東京書籍を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校体育（保健）について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　引き続き小学校外国語に移る。専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校　外国語の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

小田専門委員　小学校外国語の教科書について、専門委員会の調査・分析をご説明申し上げる。

小学校外国語の教科書を発行している会社は７社ある。専門委員会では、各社それぞれの調査・分析を細かく行った。本市の子どもたちにとって、より分かりやすく親しみやすい教科書はどれなのか、本市の先生方が指導しやすい教科書はどれなのか、という視点に立って検討した。７社それぞれ優れている点はあるが、最終的に上位３社に絞って検討した。

３社は、東京書籍、光村図書、教育出版である。

まず、東京書籍について申し上げる。東京書籍のＮｅｗ　Ｈｏｒｉｚｏｎは、児童が「やってみたい」と意欲を引き出せるようなイラストや写真などがレイアウトされており、ＱＲコードを活用して、教室はもちろん、家庭でも保護者と一緒に取り組むことができる。

細かく申し上げると、さらに次のようなことが挙げられる。

１、社会や家庭科と関連する単元や、実際の買い物の場面を想定する単元があり、実生活に結びついている。

２、学習の流れが一定のサイクルで、児童に気づきや理解を促すことができる。

３、コミュニケーション活動の進め方が明示されているので、主体的に学ぶことができる。

４、学ぶ手順が始めのページに載っており、見通しをもって学習を進めることができる。

５、別冊の「ピクチャー・ディクショナリー」は、活用次第で効果的である。

次に、光村図書について申し上げる。光村図書のＨｅｒｅ　Ｗｅ　Ｇ　ｏは、最終的な学習のゴールを示し、さらに各単元におけるＨｏｐ、Ｓｔｅｐ、Ｊｕｍｐの内容を、はじめに確認できるようになっていて、教師も児童も見通しをもって学習を進めることができる。また、英語の苦手な教師でも指導しやすい構成になっている。各教科との関連を図った教材があるのもよい点である。各単元の終わりには、アルファベットタイムやファンタイムといった既習事項の確認や発展的な内容が取り入れられており、定着を図ることができる。

細かく申し上げると、さらに次のようなことが挙げられる。

１、必然性のあるコミュニケーション場面が設定されている。

２、道案内や注文など、実際の場面で相手がいることを意識した内容になっていて、実生活で使う表現を自然に学習できる。

３、はじめにストーリーを聞かせることで、単元の重要語句や表現に気づかせることができるだけでなく、実際の場面をイメージしやすい。

４、見て、聞く活動が多く取り入れられている。コミュニケーションの状況設定が自然で、無理なく学習に臨むことができる。

５、「伝わる表現を選ぼう」など、徳力にもつながる内容が含まれており、英語においても適切なコミュニケーションを取ることの大切さを示している。

６、ＱＲコードのコンテンツが充実していて、指導側も大変参考になる。

最後に、教育出版について申し上げる。教育出版のＯＮＥ　ＷＯＲＬＤは、学級経営の視点に立った内容が多く、担任が授業を行いやすくなっている。単元のはじめのＬｅｔ‘ｓ　Ｗａｔｃｈが異文化や他者を知る機会になるとともに、単元のめあてのイメージをもったり、学習意欲を高めたりするのに効果的な教材になっている。QR コードが利用できるようになっていると、さらに効果的になると考えられる。

細かく申し上げると、さらに次のようなことが挙げられる。

１、ストーリー性のある場面設定や実在する人や物を題材にしている。自分自身のことを表現したい時に、巻末の語彙を利用しても良いことが書いてあり、児童の思いを表現しやすいように工夫されている。

２、活動の仕方が分かりやすく、学習に取り組みやすい。場面を変えて何度も聞く活動が設定されている。

３、日本の文化、世界の文化のバランスがよい。国際理解に役立つ態度を養うことができる。単元のめあてに対して自分で考える機会や振り返りが設けられている。

４、巻末のカードにミシン目があり、手で切れるようになっているのがよい。資料にアニメのキャラクターや有名人など、児童によく親しまれているものが使われている。

以上である。

茂呂教育長　　ただいまの報告について質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　　次年度から新学習指導要領が全面実施となるが、これまでとの変更点はどんな点か。

大野指導主事　　３・４年生は、これまで外国語活動の授業は実施されていなかったが、次年度からは、外国語活動が週１時間（年間３５単位時間）必修化される。領域は、「聞く・話す（やり取り）・話す（発表）の３領域を扱う。

５・６年生は、教科として外国語科が新設され、週２時間（年間７０単位時間）実施される。「聞く・読む・話す（やり取り）・話す（発表）・書く」の５領域を扱い、教科ですので成績がつくことになる。

宿谷委員　　新学習指導要領のポイントとなる点はどこか。

小田専門委員　　３点ある。

１点目。新学習指導要領で強調しているのは、「英語を使う場面・目的」を大切にすることである。どのような場面で、どのような目的のもとで使う表現かを、実際のやり取りを通じて体験し、理解をさせることを重視している。

２点目。１回の授業で定着を目指すのではなく、様々な単語や表現を、何度も繰り返し使って慣れ親しませることを重視している。

３点目。３・４年生は音声中心、５・６年生は音声と文字を扱う。高学年の「読む・書く」に関しては、音声で十分に慣れ親しんだ後、なぞり書きをしたり、写して書いたりする程度の扱いでよいことになっている。

菅原委員　　各学校で研修会をもったり、教師研修も実施していることと思うが、現在の川口の外国語活動における実態と課題はどんな点か。

小田専門委員　　２年間の移行期間を経て明らかになった本市小学校の実態と課題は以下の通りである。５点ある。

１、ＡＬＴや外国語専科教師の数が限られており、担任が一人で授業を進める時間が多い。そのことから、学校間、担任の力量によって児童の学びに大きな差が生じている。

２、児童の学習動機や習熟に差が生じている。教材を使用する際は、扱う順序、導入・活動の展開等、指導者の創意工夫が必要である。また、コミュニケーション活動を充実させるため、場面・状況設定が明確でなければならない。

３、授業全体がゲーム的な要素が強くなり、活動が目的化してしまう傾向がある。単元全体でのねらいの明確化、そのねらいに迫るための活動の精選、外国語を他者とのコミュニケーションに運用する、という視点が必要である。

４、ＡＬＴとの授業がうまくできない、打ち合わせの時間が十分に取れていない。学習効果を高めるため、ティームティーチングを有効に展開する指導用資料などが必要である。

５、音声、文字の点において中学校への接続が十分ではない。小中の指導

を連結させ、系統的な指導法を実践する必要がある。

以上である。

齋藤委員　今おっしゃられた課題を克服するために重要な観点、視点は何か。

小田専門委員　教科書として重視すべき点は、以下の５点であると考える。

１、担任が一人でも授業を進められるデジタル教材の充実、どの担任も安心して授業が展開できる無理のない授業構成であること。

２、学習動機を高めるための教材の工夫、また、学習者が自律的に家庭での学習が進められる音声・動画コンテンツの充実していること。教材においては、コミュニケーションを行う場面・状況設定が明確であること、単元や全体を通して話の流れがあることが求められる。

３、学習指導要領に示されている５領域の目標を達成することが可能かどうかということ。特に、話すこと（やりとり）話すこと（発表）の目標に迫る展開になっていること。そのために、教える側の指導手順が明確であること、児童にとって学ぶ見通しが明確であることが重要であると考える。

４、ＡＬＴとのティームティーチングを効果的に展開するための資料・教材が充実していることが求められる。

５、小学校４年間の学習を中学校へ接続するため、文法や語彙・表現において系統的な指導ができることが大切であると考える。

以上である。

茂呂教育長　菅原委員から課題について、斎藤委員からそれを克服するためにという質問があったが、課題を解決する点で優れている教科書は、端的に言ってどの教科書だと捉えているか。

小田専門委員　優れている教科書は東京書籍と光村図書の２社であると考える。

東書のＮｅｗ　Ｈｏｒｉｚｏｎの特徴は以下の３点である。

１、実生活に基づいたコミュニケーション場面の設定や、社会や家庭科と関連を図るなど幅広いトピックで、外国語を使いながら学ぶことができる。

２､学習のサイクルを一定にすることで児童に気付きや理解を促している。

３、ピクチャーディクショナリーが付いているが、活用次第で効果の有無は分かれる。また、全体の授業構成なども教師側の工夫や力量が問われる部分がある。

もう１社は光村のＨｅｒｅ　Ｗｅ　Ｇｏ！ である｡その特徴は以下の３点である。

１、題材全体にストーリー性があり、コミュニケーションを行うための目的、必然性のある場面が設定されている。

２、どの単元Ｈｏｐ、Ｓｔｅｐ、Ｊｕｍｐというスモールステップを経ているため、英語が苦手な児童も無理なく意欲的に学習に臨むことができる。

３、ＱＲコードのコンテンツが充実しており、家庭での自学習に活用することが可能である。

４、英語の歌や英語圏の童話など、教材の本物性が高い。

専門委員会としては、以上のような点を鑑みると、光村図書が、外国語活動の指導経験にばらつきがある本市の実態に最も即した教科書といえると考える。

茂呂教育長　来年度からいよいよ教科化されるということで、本市の実態や学習指導要領の趣旨を具体化するには光村がよいという捉えでよいか。

小田専門委員　よい。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校外国語の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

中田委員　説明を踏まえると光村。どの単元もＨｏｐ、Ｓｔｅｐ、Ｊｕｍｐでわかりやすい。

齋藤委員　苦手意識が絶対にある。そこで嫌いにしてはいけない。幅広く色々な角度からサポートしようとしているので、光村がよい。

宿谷委員　指導経験のばらつきを考えて光村がよい。

菅原委員　初めて使う教科書なので、説明を聞いて決定打になったのは、まだ緒に就いたばかりで、授業が教師の指導力、力量によってしまうことを考えると、自分は東書か光村かと思っていた。光村でしばらくやってみてということがよいのではないか。

茂呂教育長　中学校との連携やジョイントを考えてということでも、これまでの報告や協議の内容から、小学校外国語は光村図書を採択することに決定してよいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校外国語について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　引き続き小学校道徳に移る。専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、小学校特別の教科道徳の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、お願いする。

大竹専門委員　調査員会では、学習指導要領に示された「特別の教科　道徳」の目標に基づき、調査研究してきた。

特別の教科道徳の教科書は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの合計８社である。全体的な傾向としまして、従来の教科書と比較すると各社とも、５～６の教材の入れ替えはあったが、構成、特色等について、大きな変化はなかった。

調査員会の報告書を基に、それぞれの教科書のよさや特徴について述べさせていただく。

東京書籍は、いじめ問題、生命の尊重に特化した教材が多く、児童が現代的な課題について多面的・多角的に考えを深めることができる構成となっている。また、教材文中心の紙面構成で、児童の実態に応じた授業を行いやすい教科書となっている。

学校図書は、読み物「きづき」と活動「まなび」の２分冊で構成されていることが大きな特色です。教材に発問や主題名が記されていないので、児童の問題意識を大切にしながら授業を展開することができます。

教育出版は、道徳科で考えるべき基本的な発問例が一通り示されており、見通しをもって学ぶことができる構成になっている。児童に馴染みのある人物を扱った教材や希望を膨らませられる教材が多く、人間として生きる喜びについて考えることができる。

光村図書は、本時の学びを明確に意識するための工夫や主体的に学びを広げていくための工夫が充実している。教材と現代的な課題との関わり、他教科等との関わりも意識しやすく、関連を図りながら指導のつなげることができる。

日本文教出版は、いじめ問題を扱った教材では、「自分事」として考えやすい教材が多く充実している。また、情報モラル、人権問題、生命尊重や自尊感情の育成に関する教材などが充実しており、現代的な課題について多面的・多角的に考えることができ、川口市の児童の実態に即した効果的な指導ができると考える。

光文書院は、現代的な課題について多く取り上げられ、コラムなどを利用して、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。また考えるポイントや見方が吹き出しで示され、自己の考えを深めるような授業を行えることが期待できる。文字が大きく、３年生まではすべての漢字にルビがふられるなど、学力に課題を抱える児童にも配慮されている。

学研教育みらいは、Ａ４版で、他社と比べて教科書が大きく見やすいことが特徴である。イラストや場面絵が大きく、文章量が少ないため、学力に課題のある児童にも分かりやすく、全員参加型の授業を展開しやすいと考える。教材名の前に、あえて主題名や条件・情況等の情報を示さない工夫をしているため、児童が価値への方向付けをされず、児童の問題意識を大切にした授業を行いやすくなっている。

廣済堂あかつきは、人間としての生き方に迫る教材が多く、話し合うことにより、道徳性の育成と共に健全な自尊感情の育成につなげることができると考える。また、話し合いの手立てが示されており、自分なりの考えを深めることができ、どの児童も主体的に学ぶことができる。

重視した視点の１つ目は、生命尊重、自尊感情の向上等本市の児童が抱える課題に対応できる教科書ということである。いじめを含めた現代的な課題や、生命尊重について深く考えられることは、本市の児童にとっても極めて大切な視点である。特に、自尊感情の向上は、川口市の児童生徒の課題でもあり、自己を見つめ、広い視野から、物事を多面的・多角的に考えさせ、自己の生き方についての考えを深める学習活動を展開し、道徳性の育成につなげることが重要な視点である。

重視した視点の２つ目は、問題解決的な学習や体験的な学習などの学習活動を効果的に行うことができる教科書であるということである。これらの学習を効果的に行えることは、児童に考えさせることを明確にし、道徳的諸価値についての理解を進め、道徳的判断力等を育成する上で重要な視点である。

重視した視点の３つ目は、読みやすさ、見やすさ、教材と他の教育活動等の関連のわかりやすさなどを含め、本市の児童生徒にとってわかりやすく手にとりたくなる教科書であるということである。道徳を身近なものとして感じ、道徳的諸価値について考える姿勢を養うためにも重要な視点であると考えた。

これらの３つの視点を踏まえた上で、教師にとって「特別の教科　道徳」の目標を達成するための指導をしやすい教科書であるということが大切な視点と考えた。

道徳については、教師の指導力の差が他の教科に比べ大きく、特に若手教師が多くなっている本市の多くの教師にとって指導をしやすい教科書を選び、道徳の特質を踏まえた質の高い指導につなげることが、子供たちの道徳性の育成につながる重要な視点であると捉えた。

以上の重視した３つの視点も踏まえて、専門委員会としては、総合的に判断し、児童にとって学びやすい教科書は、日本文教出版、光村図書、学研教育みらいの３社であると考えている。

以上で、報告を終わる。

茂呂教育長　ただいまの報告について質疑を行う。何か質問はあるか。

宿谷委員　先ほどの説明を伺った上で改めて伺うが、「特別の教科　道徳」の授業として大事な点はどんな点か。

小久保指導主事　特別の教科道徳の目標を踏まえ、「考え、議論する道徳」の授業を行うことを通して、子どもたち一人一人に着実に、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てていくことである。

齋藤委員　２年前に採択した時とどこか大きく変わっている部分はあるか。

大竹専門委員　全８社とも前回の採択時と比べて、各学年４～６程度の教材の入れ替えが見られた。どれも現代的な課題に対応した教材の入れ替えとなっている。構成及び主な特徴については、各社とも大きな変化はない。

宿谷委員　今回も、読み物教材の教科書だけの会社と、別冊ノート等がある会社があるが、その活用の仕方や特徴など、良さについて、もう少し詳しく説明いただきたい。

大竹専門委員　別冊ノート等がある会社は、学図、日文、あかつきの３社である。別冊ノート等は、児童に自己を見つめさせる手立てとなるとともに、自分自身の成長を実感させる手立てになる。教師にとっては、授業づくりの参考となるとともに評価を行う際に児童一人一人を見取るための記録として活用することができる。

３社の中では、日文が、書かせる内容、分量ともに使いやすいノートであると思われる。

齋藤委員　前回の採択で日文を使用することになったが、日文の別冊ノートを実際に使ってみてどうだったか。

大竹専門委員　ノートがあることで、授業が見通しをもって進められるよさがある反面、書かせる内容が事前に決まっていて使いにくいという課題が見られた。今回の改訂では、ノートの構成が大きく変わっている。上段は、書かせる内容が決まっているが、下段は、児童生徒が自由に記入できるスペースが確保され、授業者の意図に沿った活用ができるように改善されている。

中田委員　先ほどの専門委員の説明にもあったが、教科になり、新たな指導法の例として示された問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習という項目について、各教科書では具体的にどのような工夫が見られるか。

大竹専門委員　どのような学習かをわかりやすく示しているのは、学図、日文、光文である。中でも、日文は子供たちが活動する写真も掲載し、具体的で丁寧な説明を示している。

一方で、学研、光村は、ガイド等は精選して少なめで、教材文中心の構成となっていることから、教師が弾力的に問題解決的な学習等を行いやすい教科書となっている。

中田委員　現在の社会的背景を鑑みると、情報モラルについて指導の充実が必要だと思われるが、そのような観点から内容が充実しているのは、どの会社の教科書か。

大竹専門委員　全８社とも関連を明記するなど工夫が見られる。

特に光文は１年生から全学年で「情報モラル」を取り上げ、携帯電話やＳＮＳ等について学ぶ題材を配置している。

また、東書は携帯電話について異なる視点から教材を４～６年に配置している。

教出、光村、日文は「情報モラル」のあとに「心のベンチ」など理解を深

めるようにしている。

茂呂教育長　他にあるか。他になければ、本市の児童の課題を踏まえて項目を絞って協議したいと思う。

では、私から質問するが、現在、川口市の道徳教育における児童の実態や課題はどんな点か。また、その課題を踏まえて、児童にとって、よりよい教科書という点で、特に重視すべき点はどんなことか。

大竹専門委員　課題については、地域性も様々であり、外国籍児童も多いことから、多様な児童に対応できることである。

重視すべき点は、大きく２点ある。

１点目は、いじめ、生命尊重、自尊感情育成の課題に対応できる教科書であるということ。

２点目は、川口市には年齢も経験も異なるたくさんの教師が児童の指導に当たっていることから、なるべく多くの教師にとって特別の教科道徳の目標を踏まえた指導をしやすい教科書であるということである。

中田委員　道徳の教科化の発端として「いじめ」問題に対する指導の充実を図ることが重要であると考える。本市でも、いじめに対する指導を充実させることが大切であると思うが、そのような点では、どの教科書の教材が充実しているか。

大竹専門委員　どの教科書でも取り扱っているが、日文、光村が充実している。

この２社は、いじめについて目次等にいじめとの関連をわかりやすく示したり、重点的にユニット形成で教材を配置したりするなど、いじめについて深く考えられるような工夫をしている。

例えば日文は、補助資料として、４年生では「いじめの四層構造」について、６年生では「いじめと法律」について説明しているページがある。

宿谷委員　教育に関する全国的なニュースから、本市でも、命の尊さを指導する内容が充実していることが大切であると思う。その点で、どの会社の教科書が充実しているか。

大竹専門委員　「生命の尊さ」については、全社で重点的に扱っておりますが、中でも、学研と光文の２社が充実していると考える。

学研は、「いのちの教育」を最重点テーマとして扱っており、２学年ごとにテーマを設けて様々な視点から命の尊さについて学べるようにしている。

光文は、「生命の尊さ」について、多く教材があり、学びを広げられるようにしている。

齋藤委員　本市の課題として挙げられた自尊感情について、効果が期待できる題材が充実しているのは、どの会社の教科書か。

大竹専門委員　光村、日文、学研の３社が充実している。

光村は、著名人の生き方から勇気を与えられる教材が充実している。日文

は、内容項目「Ｄよりよく生きる喜び」の教材が充実していて、特に高学年は夢や希望のある生き方、誇りある生き方について深く考えさせることができる。

学研は、「つなげよう」「広げよう」というコーナーの活用で自尊感情の育成につなげることができる。

菅原委員　学校からの調査報告では、日文・学研・光村を評価しているようだが、専門委員としてはいかがお考えか。

大竹専門委員　日文は、昨年度１年間及び今年度も使用してみて、子どもたちにとって学びやすく、教師にとっては指導しやすかった表れだと思われる。

学研は、教科化される以前に副読本として多くの学校で使われていたこともあり、親しみやすいとともに、挿絵が充実していることから、特に低学年にとっては、学びやすいという特徴が顕著にみられるからだと思われる。

光村に関しては、他社と比べて教材文が充実していることから、子どもに多面的多角的な思考を促す多様な授業展開を構想しやすいという特徴が学校からの評価の対象になったのだと思われる。

菅原委員　日文・学研・光村の３社と他５社と比べて大きな違いはあるのか。あるとしたら、どんなところだと捉えているのか。

大竹専門委員　現代的な課題の一つであるいじめ問題や人との関わりを扱った教材数が大事だと捉え、調査した。その結果、５、６年生の教科書では、他５社が３～４本の教材に対して日文・学研・光村の３社は、７～８本と充実していた。

茂呂教育長　総括して、専門委員会として、どの教科書を推薦するか。

大竹専門委員　日文である。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、小学校特別の教科道徳の教科書を決定していきたいと思う。何か意見はあるか。

中田委員　２年前に一生懸命協議した。使ってみて弊害もないようなので、日文で継続した方がよい。

齋藤委員　日文がよい。しっかりと道徳教育を遂行していると感じた。

宿谷委員　日文がよい。成長過程がよくわかるようにグレードアップしている。いじめもしかり。

菅原委員　日文で心配だったのは別冊ノートだった。書くことが限定されるのではという懸念があったが、改善されている。引き続き使用した方がよい。

茂呂教育長　学校からもこれまでの協議の内容や各委員のご意見から、総合的に見て、小学校特別の教科道徳は、日本文教出版を採択することに決定してよろしいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　以上で、小学校特別の教科道徳について協議を終わる。

専門委員と事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　それでは、議案第１１６号「令和２年度使用小学校教科用図書の採択について」の協議が終わったので、採択した教科書の確認をする。

小学校の教科書については、

国語・・・光村図書
書写・・・光村図書
社会・・・東京書籍
地図帳・・・帝国書院
算数・・・東京書籍
理科・・・大日本図書
生活・・・光村図書
音楽・・・教育芸術社
図画工作・・・日本文教出版
家庭・・・東京書籍
体育（保健）・・・東京書籍
外国語・・・光村図書
特別の教科道徳・・・日本文教出版

ということになった。

以上で、議案第１１６号「令和２年度使用小学校教科用図書の採択について」を可決する。

【休会】

茂呂教育長　これで、休憩のため、暫時休会とする。１０分程度。

【再開】

茂呂教育長　それでは、日程第６の議事を再開する。

茂呂教育長　これより、議案第１１７号「令和２年度使用中学校教科用図書の採択について」に移る。

中学校国語・書写、社会・地図、数学、理科専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、教科ごとに順番に中学校の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、最初に国語からお願いする。

川鍋専門委員　結論から申し上げて、来年度も光村の教科書を使用することを推薦する。調査員会では、前回の調査報告書をもとに内容を精査し、４年間の使用感・使用実績を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

国語においては、小学校からの学習がスパイラルにつながっている。言語そのものを扱う国語科の特性を考えたときに、次の３点が特に優れている点であると判断した。

１点目として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、学習の手順や言語活動の具体例を設定し、基礎・基本が身に付くように構成されていること。

２点目として、「読むこと」の教材では「学習の窓」で基本を確認し、「学習の手引き」で適切な課題設定をすることで、知識・技能の習得ができるようになっていること。

３点目として、基礎的・基本的な知識・技能の習得から、生徒の発達の段階に合わせて、思考力・判断力・表現力を養う課題が配列されており、生徒・教師がゴールをイメージしやすく、使用しやすいということ。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　国語科は教科の特性として「言語そのものを扱う」ということだが、川口市の生徒や授業の課題はどんな点が挙げられるか。

上倉指導主事　川口市の生徒は、これまでの調査等の結果から、漢字の習得や語句の意味等、言葉そのものについては、高い理解を示している。一方で、問いの意味を吟味し、指定された条件のもと、自分の考えを広げたり、まとめたりする力には課題がある。

菅原委員　光村の教科書を使用するにあたり、これらの課題を解決することはできるのか。

川鍋専門委員　自分の考えを広げたり、まとめたりするためには、適切な題材の設定が重要である。光村の教科書では、「説明的文章」「文学的文章」で、生徒の発達の段階に合った、意欲的に取り組める作品が掲載されている。特に、「文学的文章」では、人間の生き方や心情について、不易と流行を考えられるような教材を配していることから、自分の考えを持ち、広げ、まとめるための指導ができるものと考える。

中田委員　先程、「学習のねらいに合った言語活動」という説明があったが、先生方がそれをできるような工夫が、光村の教科書にあるのか。

川鍋専門委員　光村の教科書は、これまでに学んだ内容を効果的に生かしながら、段階的に難易度が増す教材配列になっている。言語活動の設定としては、例えば、冒頭の説明で申し上げた「学習の手引き」では、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えを持とう」という形で、適切な課題を配置し、生徒の主体的な学習や見通しのもてる学習につながっている。このことを生かした授

業構成を工夫することにより、学習のねらいに合った言語活動が設定できると考える。

茂呂教育長　　他に質問はあるか。

各委員　　（なし）

茂呂教育長　　続いて書写に移る。調査研究の報告をお願いする。

川鍋専門委員　　書写についても、国語同様に引き続き光村の教科書を推薦する。

大きな特徴としては、２点ある。

１点目は、見開きでのページレイアウトが挙げられる。見開きの右側のページで、学習する文字の特徴や書き方を学び、左側のページの手本を書いて、学習内容を確認するというスタイルで、統一されたつくりになっている。

２点目は、古典や詩歌等、伝統的な言語文化を書いて味わう教材や、広告・デザイン等の身近な文字を扱う教材が多く配置されていることである。これらの教材により、身の回りの文字文化に親しむ意欲が高められると考える。

茂呂教育長　　ただいまの報告について、質疑を行う。私から質問よろしいか。

書写については、書く技能がどれだけ身に付くかということが重要だと思うのだが、光村の教科書では、技能を養うためにどのような特徴があるか。

川鍋専門委員　　特に、毛筆について申し上げる。

毛筆の基本点画は９種類あるが、すべてが確実に示されている上、そのすべてに「始筆」「送筆」「終筆」の筆圧が数値化されていることで、生徒にもわかりやすくなっている。設定されている教材も中学生にとって適切で、毛筆の知識・技能両面の基礎・基本が身に付きやすいものと考えている。

茂呂教育長　　他にはいかがか。

宿谷委員　　書写は漢字だけでなく、平仮名や片仮名等、楷書や行書なども学習すると思うのだが、光村の教科書では、そのあたりはどうなっているのか。

川鍋専門委員　　巻末の「書写事典」に、常用漢字が楷書・行書で表されている。また、平仮名、片仮名、数字、アルファベットの手本があり、文字を書くということを総合的に網羅している。

さらに、「楷書と行書の使い分け」という学習が設定されており、目的や必要に応じて書く力を身に付けることができると考える。

宿谷委員　　平仮名や片仮名だけでなく、数字やアルファベットの手本もあるということだが、小学校からどんなことを学んできたか、生徒はわかるようになっているのか。

川鍋専門委員　　まず、目次には、「３年間の見通しをもとう」というページがあることで、学習内容が明確になっている。このことで、生徒が主体的に学習に取り組めるようになっている。

さらに、小学校の学習内容の振り返りと中学校３年間のまとめのページがあり、小中学校９年間で身に付ける力が明確なつくりになっている。

茂呂教育長　　他に質問はあるか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　引き続き、社会に移る。調査研究の報告をお願いする。

大場専門委員　　結論から申し上げて、来年度も東京書籍の教科書を使用することを推薦する。

調査員会では、前回の調査報告書をもとに内容を精査し、４年間の使用感・使用実績を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

中学校社会は地理･歴史･公民の各分野において、小学校の学習を生かしたスパイラルの学習となっている。そのため、小学校での学習を基礎とした学習が重要となってくる。その上で、東京書籍の教科書については、次の３点が特に優れていると判断した。

１点目は、小中の系統性を強く意識していることである。分野ごとに各扉ページなどに小学校で学習した用語や写真が掲載されることによって、既習の知識と新しい知識とがわかりやすく示されており、学習内容の見通しが非常に立てやすいことが挙げられる。このような小中の系統性を強く意識した構成は生徒の学習のしやすさにつながっている。

２点目は、分野ごとに導入から確認までの流れがスムーズになっていることである。それぞれ見開き２ページの構成で、しっかりと構造化されており、特に「確認」の部分については、キーワードを基に説明したり、言葉でまとめたりといった言語活動の充実が図られており、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を目指すことが可能となっている。

３点目として､豊富な資料が挙げられる｡写真やグラフはもちろんのこと、様々なコラムや用語集などの補助資料、また、章ごとに設けられているまとめについても多様なまとめかたの例が示されており、様々な手立てによって生徒達の興味関心を高め、多様な考え方を引き出すことができると考える。

以上の点により、来年度も東京書籍の教科書を使用することを推薦する。

茂呂教育長　　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　　川口市の生徒や授業については、社会科としてどのような点が課題として挙げられるか。

向井指導主事　　新学習指導要領でも指摘されている課題として、主体的に社会の形成に参画しようとする態度、資料から読み取った情報を基にして、比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力が挙げられる。

社会科につきましては、全国学テなどの指標はございませんが、国語等の教科でもまとめたりする力に課題が見られる。そのため、川口の中学生にも同様の課題が見られると考える。

茂呂教育長　　今、課題の話があったが、専門委員としては、東京書籍の教科書を使い続けることで、そのような課題は解決できると捉えているか。

大場専門委員　　見開きの２ページの展開の最後には、必ず自分の言葉でまとめたり、説明する活動が設定してあり、そのような活動を繰り返していくことで、生徒達

に比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力が少しずつ高まっていく。

このような力を育むために、教師も授業改善に取り組んでいるところであるので、これまでの教科書を使うことで、さらに効果的な指導に結び付けられるものと考える。

茂呂教育長　先程の説明の中で「構造化されている」とあったが、構造化されていることの利点として、どのようなことが挙げられるか。

大場専門委員　社会科の学習は、導入で課題を把握し、その課題を解決するために資料から必要な情報を抜き出したり、情報を比較したりすることで、課題解決の糸口を見つけ、自らの力で課題を解決していく、問題解決学習が基本である。

その流れが、全学年を通じ構造化されていることで、生徒達は課題解決のプロセスを学ぶとともに、資料の見方や見つけ出した情報の扱い方など社会的なものの見方や考え方をしっかりと身につけることができると考える。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　続いて、地図に移る。調査研究の報告をお願いする。

大場専門委員　地図につきましても、引き続き帝国書院の地図帳を推薦する。

大きな特徴としては、２点ある。

１点目は地図のバラエティの豊かさである。主要な地域の大鳥瞰図では、大まかな地形や風土の様子、文化や産業など、地域の特色を概観できる。また、地図中にイラストや写真を適宜入れることで、地図だけではつかみにくいその都市部の特色を捉えやすくしている。このように、一般的な地図だけでなく、様々な地図を掲載することで、地理的な見方・考え方や社会的事象を多面的・多角的に考察する工夫がされている。

２点目は学習での使いやすさである。例えば、歴史や公民の学習で関連のある都市部を大きく取り上げる、資料図を交えることにより日本との結びつきや風土、民族、宗教、産業の特徴を捉えやすくするなどの工夫がなされている。このことに地理の学習だけでなく、歴史や公民分野でも十分に活用することができ、３年間の社会科の学習で使い続けられる地図帳となっている。

茂呂教育長　授業で地図帳を使うことの意義とは、どのようなことが挙げられるのか。

大場専門委員　新学習指導要領では、小学校４年生から配布されていた地図帳が、小学校３年生から配布されることになり、全ての学年での地図帳の活用を求めている。また、社会科改訂の趣旨及び要点の中には「教科用図書　地図」を第３学年から配布するようにし、グローバル化などへの対応を図っていくこと」という記述が見られる。

小学校では、身近な地域から市、県、日本と世界を段々と広げる。中学校ではこの流れを受け、小学校の学習からさらに世界を広げ、地図を通して世界を学ぶことになる。そんな授業の中で地図帳を活用することで、見たこと

のない地域を地理的な視点から捉えることが可能となる。

また、資料を活用する力を育成するためには、地図帳はとても使いやすい教材であり、社会的なものの見方や考え方を身につけるよい教材であると考える。

菅原委員　小学校の地図の協議でも聞いたことだが、川口市の生徒の地図を活用する力の現状はどのようなものか。

向井指導主事　川口市の生徒の地図を活用する力については、小学校からの反復で索引などを使って効率的に地名を調べたり、色の違いから土地の様子を読み取ったりするなどの、地図帳を使う技能は一定程度身についているものと捉えている。

中学校でも授業の導入で地名を探す活動を取り入れる教師もおり、子どもたちが地図帳に親しんでいる様子などもうかがい知ることができる。

今後は、課題解決のために主体的に地図を活用できるような力を身につけるための授業の展開などを教師が工夫していくことなど重要であると考える。

宿谷委員　地図の中で領土問題に関する内容は、明確に、十分なものになっているのか。

大場専門委員　領土については、例えば北方領土については歴史的な変遷が示されるなど、日本の領土としての記述がしっかりとなされたものとなっている。

その他「竹島」や「尖閣諸島」についても、しっかりと示されており、学習指導要領で求められている内容を踏まえたものとなっている。また、それぞれの北端、南端、東端、西端についても写真で分かりやすく示されている。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　次に、数学へ移る。調査研究の報告についてお願いする。

阿部専門委員　調査員会では、来年度も啓林館の教科書を使用することを推薦する。

本委員会では、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、前回の調査報告書を参考に内容を精査し、川口市の生徒の実態などを踏まえ、検討した。詳細は、報告書のとおりである。

数学においては、数量や図形などについて、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、これらを活用して、問題を解決するために必要な「数学的な思考力、判断力、表現力等」を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連について理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力を育成することが求められている。

そのためには、数学の授業を通して、自ら意欲的に問題に取り組み、友達との関わりの中で、考え方や方法を統合・発展し、問題に対する最適・最善な解に自らの力でたどり着く、問題解決能力の向上が必要不可欠であると考

える。

これらの点と照らし合わせて見た場合、実際の生活に関連づけた豊富な問題が掲載されている点も含め、適度な問題量がある点や、これまでに学んだ関連する事柄が記載され、振り返りが充実しているため授業が進めやすく、生徒の学びの手助けになっている点、自分の考えを説明したり、話し合ったりする場面が意図的に設定されている点などが、よい点として挙げられる。

以上のことから、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、生活や学習に生かそうとするなど、数学的に考える資質・能力を育成するための一助になる教科書であると考える。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

菅原委員　現在使用している、啓林館の教科書が優れている点はどこか。

阿部専門委員　３点ある。

学習の流れが分かりやすく、扉のページなどで生徒の興味関心が高められるように工夫されている点。

問題量も十分に確保されており、主体的・対話的で深い学びになるような題材や生活と関連した題材も多く用意されている点。

登場人物などの会話などにより、生徒たちの思考の助けになっている点も優れている点。特に配色が工夫され、重要なポイントなどが一目でわかるようになっているため、生徒にとっても使いやすい教科書である。

中田委員　県や全国の学力学習状況調査の結果から見た川口市の数学の課題は何か。

中山指導主事　数と計算／量と測定／図形／数量関係の、いずれの領域も平均に達していないことから、基礎的・基本的な知識や技能の習得が最大の課題である。

また、記述式の正答率が低く、思考力、判断力、表現力の育成も課題となっている。

宿谷委員　先程、配色の工夫について説明があったが、カラーユニバーサルデザインについてはどのような配慮がされているか。

阿部専門委員　色の見え方が一般と異なる人にも、情報がきちんと伝わるよう、色使いに配慮したデザインとなっている。

齋藤委員　基礎的・基本的な知識・技能の定着が課題だということだが、どのようなことが大切か。

阿部専門委員　習熟を図る上でも、式の計算や方程式を解く際は、その手続きの基礎に概念や原理・法則があることや、概念などをうまく使って数学的な仕方が考え出されることを理解することが大切である。

そのためには、自分の考えを説明したり、話し合ったりする授業展開が必要である。もちろん、繰り返しの練習も大切だと考える。

茂呂教育長　数学は、学年が上がるにつれ苦手な生徒が増える傾向があるが、苦手な生徒をはじめ、支援を必要とする生徒への配慮という点ではどうか。

阿部専門委員　啓林館の教科書では、巻末の付録などで数学が苦手な生徒も楽しく学べる

ように工夫してある。扉のページで単元への興味が持てるような題材があり、生徒が興味を持って取り組めるように工夫されている。

また、「数学展望台」で古代の話等があり、興味関心を高められる。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　引き続き、理科に移る。調査研究の報告についてお願いする。

寺田専門委員　調査員会では、理科の学習指導要領の目標である『自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。』ことを踏まえ、調査・研究をして参った。川口市の生徒の実態として、理科が好きと答える生徒が小学校の児童に比べ減少し、理科の有用性を意識できないという現状を改善する必要がある。

このため、身近な自然事象から課題を見出し、観察・実験を中心とした探究の過程を通じて、自ら課題を解決し、解明できた事象を生活に活かしていくことが大切であると捉えている。このことが、理科の有用性の向上につながっていく。

このことを受けて、現在使用している大日本図書は、１年を通して共通した進め方で生徒が学習できるように編制されており、写真やイラスト、図、グラフ、解説文なども見やすく、生徒にも教師にも扱いやすい。

既習事項の確認など、系統性を重視しているため、教師には扱いやすく、生徒にとっても振り返りながら学習できるため、わかりやすい。

観察・実験の基本操作も詳しく示しており、事故を防ぐための注意喚起にも工夫がある。

単元ごとに、基礎・基本の定着から発展的な内容まで、幅広く学習することができる。

日常生活や実社会に関連した内容も多く掲載されており、理科の有用性を実感できる構成になっている。ということが挙げられる。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　特別な支援が必要な生徒にも配慮された教科書という観点からは、それぞれの教科書はどうなっているか。

寺田専門委員　東書・大日本・教育・啓林館・学校図書の各教科書会社さんにおいて特別な支援を必要としている生徒に対して配慮がなされている。

その中でも特に、大日本図書は、専門家の監修により特別支援教育への配慮がなされている。具体的には、色覚の違いによって学習に支障が出ることがないように、色遣いに配慮し、誰にでもわかりやすい紙面にしている。また、振り仮名やコラムの書体にはユニバーサルデザインフォントを使用し、吹き出しの改行位置を読みやすくしている。

中田委員　科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図ることも、理科教育の課題

の一つであると思うが、授業において、どのような場面や活動を重視する必要があるのか。また、現在使用している教科書はどうか。

寺田専門委員　科学的な思考力・判断力・表現力の育成を図るためには、生活の中での身近な自然事象から課題を見出し、観察・実験の結果を整理・分析・解釈し、考察する学習活動を重視することが大切である。授業においては特に実験観察した結果をまとめる場面、その結果に基づき話し合いを持ち、結果からわかったことを考察する学習活動を重視することが大切だと考える。

その点で評価した結果、調査員会では、現在、使用している大日本図書は非常に優れているという報告をしている。

その理由として①課題や課題解決の流れが明確であり、予想や仮説を持たせやすく、主体的に見通しをもって科学的に探究できること。②系統性がしっかり示されているので、１年を通して共通した進め方で学習できるよう編制されており、学んだことを活用して課題を解決する取り組みができること。が挙げられる。

菅原委員　「アンケートをとると、理科嫌い、理科離れが進んでいる」という説明から、理科を学ぶことの意義や有用性を意識させ、科学への関心を高めることが、課題となると思うが、その点で大日本は、より川口の実態に沿った教科書だと捉えてよろしいか。

寺田専門委員　意義や有用性を実感するためには、実社会・実生活との関連を重視する内容を充実させることが大切である。その点で評価した結果、調査員会の報告では、大日本図書が、学習内容と実社会・実生活との関連を示した活用例が多く設けており、特に優れていた。

宿谷委員　川口市の生徒の実態や課題は何か。また、小学生との相違はあるか。

川島指導主事　まず、小学生と同様に、知識・理解、技能の定着に差が見られること。特に、得られた知識を活用し、結果から自らの表現・考察することにおいて課題がある。

２点目に、探究活動をするために必要な思考力・判断力・表現力の育成が重要であると捉えている。

小学生との相違に関しては、内容が高度となるとともに、小学校の理科にはない計算を伴う単元が多くあり、そのため苦手意識を持つ生徒が増加しているのが現状である。

茂呂教育長　これまでの説明を総括すると、専門委員会としては、理科については大日本図書を推薦するという捉えでよろしいか。

寺田専門委員　大日本図書を推薦する。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　以上で、中学校国語・書写、社会・地図、数学、理科についての協議を終わる。専門委員、事務局は退室を。

（専門委員、事務局　退室）

茂呂教育長　　引き続き、中学校の協議を進める。中学校音楽、美術、保健体育、技術家庭、外国語専門委員、事務局の入室を求める。

（専門委員、事務局　入室）

茂呂教育長　　専門委員会として、各学校からの報告書並びに調査員からの報告書等の意見を十分汲み取って検討されてきたと思うが、教育委員会としても学習指導要領の趣旨に則り、「児童生徒にとって学びやすく、教師にとって指導しやすい」という観点で、よりよい教科書を選んでいきたいと考えている。

そこで、専門委員・事務局に入室をお願いした。

これから、教科ごとに順番に中学校の教科書について、専門委員会の調査、分析等をご説明いただいた上で、質問をさせていただく。

それでは、最初に音楽について、一般と器楽を併せて説明をお願いする。

磯専門委員　　音楽の教科書は、「一般」と「器楽」の２種類があるが、調査員会では、「一般」・「器楽」ともに、来年度も教育芸術社の教科書を使用することを推薦する。

調査員会では、新しい学習指導要領の内容を踏まえ、前回の調査報告書を参考に内容を精査し、川口市の生徒の実態と教師の指導力の実態を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

新しい学習指導要領における音楽科の目標は、音楽に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。そのためには、歌唱・器楽・創作といった表現の活動と、鑑賞の活動をバランスよく扱いながら、音楽の授業を通して、主体的に行うことや、友達との関わりの中で考え方や方法を共有することにより、学びを深めることが必要不可欠であると考える。

その点を考慮したとき、まず「一般」で、教育芸術社が優れている点の１点目としては資料である。巻末の「音楽の約束」や「耳でたどる音楽史」では、教材とリンクした内容や写真・図表が豊富に掲載されており、学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう工夫されている。

２点目としては、音楽文化についての理解を深めさせる工夫である。教材が系統的・発展的に取り上げられており、表現と鑑賞の一体化を図りながら学習ができ、音楽文化の理解を一層深められる構成になっている。特に、我が国の伝統的な歌唱では、絵譜で示されているなど、より歌いやすいよう工夫されている。

次に「器楽」で、教育芸術社が、優れている点の１点目としては、やはり資料があげられる。演奏家について　伝統楽器について　各楽器の演奏の仕方や基本的な奏法について　写真や図表などが多く掲載されており、生徒の学習意欲が高められるような工夫がされている。また、難易度を考慮した配列がなされ、学習が進められるよう構成されている。

２点目としては、表記・表現です。すべての生徒に学習事項が優先的に目に入るようシンプルにデザインされている。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

中田委員　現在使用している教育芸術社の教科書は、指導する教師にとって、どのような点が使用しやすいのか。

磯専門委員　学習時期や学年に適した題材と構成になっている。また、教材も取り組みやすいものからスモールステップで学習ができるようになっている。共通教材については、美しい写真もあり、情景を想像させながら表現をする活動になるよう工夫されている点が使用しやすいものと考える。

宿谷委員　ユニバーサルデザインの視点からは、どう捉えているか。

磯専門委員　平成２４年に実施された文部科学省の調査では、通常学級に発達障害の可能性のある児童生徒が６．５％在籍しているといわれており、本市も例外ではない。このことからも、ユニバーサルデザインを、より配慮した教科書を選ぶ視点も大変重要であると捉えている。

教育芸術社は、楽譜は全体的に見やすく、学習事項がシンプルでわかりやすく示されているとともに、和楽器のおいては、誰が見てもわかるよう、五線譜と和楽器固有の記譜法が併記されている。また、教材ごとに新しい音符、休符、記号、音楽に関わる用語の解説を掲載している。

齋藤委員　「行事などで、仲間と共に心を合わせて歌うことのできる合唱曲を取り入れている。」とあるが、そのことは学習指導要領で示されているのか。

三浦指導主事　学習指導要領「音楽編」によると、「学びに向かう力・人間性等」の涵養に関する目標の中で、主体的、協働的に取り組むとある。音楽科の学習の多くが、他者との関わりを大切にする活動であり、生徒一人一人が自分の考えを他者と交流したり、互いの気付きを共有し、感じ取ったことなどに共感しながら、個々の学びを深めたり、音楽を評価してよさや美しさを味わうことができることを重視している。

茂呂教育長　「『音楽学習ＭＡＰ』により、歌唱・創作・鑑賞ごとに、学習の系統を視覚的にわかりやすく示している」とあるが、どのようなことか詳しく説明をお願いする。

磯専門委員　教育芸術社(音楽一般)の各学年の目次の次のページをご覧いただきたい。そこに音楽学習ＭＡＰと題して、歌唱・創作・鑑賞が大きな３つのグループとなっており、その中で、各教材が載せられている。また、それらが、他のどの教材とどのように関わるのか、ということがオレンジ色の線でつながっており、生徒が学習時にその関わりを理解することができる。

また、右下には学習の窓口の説明があり、その記号を各教材に記すことで、何を学ぶのかが明確に示されている。

宿谷委員　器楽の方で質問するが、和楽器の扱いについてはどうなっているのか。

三浦指導主事　学習指導要領解説「音楽編」によれば、中学校第１学年から第３学年までの間に１種類以上の和楽器を扱い、表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することを示すとともに、今回の改訂では、愛着をもつことができるよう工夫することを新たに示している。

菅原委員　報告書では、教育芸術社の教科書は、「どの楽器も演奏の基礎的な能力を身に付けることができる教材の配列になっている」とあるのだが、それはどのようなことか説明をお願いする。

磯専門委員　一つ例をお示しすると、教育芸術社（器楽）の３ページ、リコーダーのページとなっているが、最初に楽器の構造から始まりチューニングの仕方、姿勢と構え方、息の使い方、音の出し方と、教師が指導しやすいよう、工夫がなされている。

更に、曲に関しても、難易度の低い曲、難易度の高い曲へと、その時間に学んだテクニックで演奏し、生徒ができたことを実感できるような配列になっている。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　引き続き、美術に移る。調査研究について報告をお願いする。

小出専門委員　現在、本市で使用している開隆堂の教科書は、題材名から作品をイメージしやすく、簡潔で具体的な内容の文章標記になっているため、生徒が主体的に取り組むことができる内容になっている。

詳しい構成については、導入から鑑賞までの授業の流れに即しており、ページの終わりに振り返りを示すことで、生徒が見通しをもって活動することができるようになり、教師の評価の観点も明確になっている。また、１年生の教科書の巻頭にある「集める・試す・組み立てる」、巻末にある「パレットコーナー」などの資料が充実しており、図画工作から美術へのつながりを意識させやすい工夫も見られる。

掲載作品に関しては、様々な材料、多様な表現方法で作られた作品を紹介することで、生徒が自分に合った表現方法を選択し、工夫することができるようになっており、レイアウトも表現と鑑賞の両方から生徒が題材のイメージを広げることができるようになっている。その他、アイデアスケッチや制作過程を効果的に掲載し、言葉や図で心の中のプロセスを紹介したりして、発想や構想のヒントとなる内容にもなっている。

以上のことから、本市の美術科の課題でもある、生徒一人ひとりの資質や能力を十分にのばし、形や色、イメージなどの〔共通事項〕をもとに、言語活動の充実をはかり、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだす力を培うにあたっては開隆堂の教科書が適していると考えられる。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　　美術の指導で重視することは、どのようなことか。

新居指導主事　感性や想像力等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成し、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての理解を深める学習を図っている。

菅原委員　　本市の美術では、どのようなことが課題になっているか。

新居指導主事　生徒一人ひとりの資質や能力を十分にのばすこと、形や色、イメージなどの「共通事項」をもとに、作品から感じたことを話す、作品のよさを伝え合うなど言語活動の充実をはかり、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすことができるようにすることに課題があると捉えている。

中田委員　　開隆堂の教科書では、題材の表現と鑑賞について、どのくらい紹介されているのか。

小出専門委員　実際の授業の流れを考え、表現と鑑賞のページを明確に区別してはいないが、題材数は、１年生が１１、２・３年生は１７になっている。

茂呂教育長　　制作過程や技能の習得には､開隆堂の教科書はどのように対応しているか。

小出専門委員　わかりやすく簡潔に写真と文章で示されており、関連するページを紹介することで、深い学びにつながる構成になっている。

宿谷委員　　生徒の作品が多く出ているのか。

小出専門委員　各題材に生徒作品が必ず掲載されており、生徒作品と参考資料がバランスよく配置されている。

茂呂教育長　　他に質問はあるか。

各委員　　なし。

茂呂教育長　　続いて保健体育に移る。調査報告の内容について説明をお願いする。

岡安専門委員　結論から申し上げて、来年度も学研教育みらい「新・中学保健体育」を推薦する。調査員会では、前回の調査報告書をもとに内容を精査し、４年間の使用感・使用実績を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

学研教育みらいの教科書は、次の３点が特に優れている点であると判断した。

１、学習のポイントが焦点化されているとともに、自ら課題を見つけて取り組めやすい内容に工夫がされている。これは、知識として理解するにとどまらず、探求的な深い学びを取り入れた授業の展開がしやすいという利点がある。特に３学年で学習する「健康な生活と疾病の予防」、１学年で学習する「心身の機能の発達と心の健康」の単元では、ライフスキルと関連させ生徒の実践力育成に効果的な内容構成となっている。

２、構成がカラーユニバーサルデザインに特化して配慮されており、全体的に文字の大きさや字体が明瞭であり、イラストや資料のレイアウトに関して過度な刺激を抑え、見る側にとって読みやすいデザインになっている。

３、章末には、学習内容の振り返りができるよう用語の確認や活用問題が設けられ、生徒の興味を引きだし繰り返し学習できるよう工夫されている。

本市の生徒は、多様化・深刻化する健康上の諸課題の解決に向け、生徒自身が自分を守るための健康・安全に関する資質や能力の向上が必要であると考えている。このようなことから、本市が取り組んでいる、健全な自尊心をはぐくむ「ライフスキルかわぐち」と関連させながら、「自他の生命尊重を基盤とした、健康・安全のための実践力の育成」が課題であると捉えている。

この課題解決に向けて育成したい力を身に付けさせるといった観点から総合的に判断し、生徒にとって大変学びやすい教科書は、学研教育みらい「新・中学保健体育」と考えている。

以上、調査員会からの報告を終わる。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

齋藤委員　中学校では、保健体育の授業時間数はどのくらい行われているのか。

猿橋指導主事　３学年それぞれ１０５時間ずつ行っている。そのうち、保健の授業は３年間で４８時間程度を配当することとなっており、各学年の時間数は、特に定められていない。川口市内の学校では、１年生１２時間、２年生１６時間、３年生２０時間を配当している学校が多くある。また、体育理論については、各学年で３時間以上を配当することとなっている。

齋藤委員　「体育理論」では、どのようなことを指導するのか。

猿橋指導主事　生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要な知識を学ぶ時間として、現行の学習指導要領より位置付けられた内容である。

１学年で「スポーツの多様性」について、２学年で「運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全」について、３学年で「文化としてのスポーツの意義」について、それぞれ３時間以上配当されている。

各学校では、運動に関する領域と関連させながら、年間指導計画に組み込んでいる。教科書では各社とも、オリンピックに関する記述や資料を多く掲載し、生徒の興味を高める工夫が見られた。

宿谷委員　「ライフスキルと関連させる」とは、どのようなことか。

岡安専門委員　「ライフスキルかわぐち」は、①自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援しながら、自己の生き方を考えられるようにする。②主体的に判断し、よりよく問題を解決できるようにする。③集団の一員として、よりよく生活や人間関係を築くことができるようにする。ことの３点をねらいに、総合的な学習の時間を中心に、特別活動や保健体育の時間で実施されるスキル学習である。

特に、意思決定スキル、ストレス対処スキルのプログラムは、保健体育３学年で学習する「健康な生活と疾病の予防」、１学年で学習する「心身の機能の発達と心の健康」において活用できる項目であり、ライフスキルを関連させることは、実践力の育成についても効果的な手法であると捉えている。

菅原委員　救急法を実際に行っている学校は、どのくらいあるのか。

猿橋指導主事　平成３０年度は、小学校３２．７％、中学校７６．９％であった。消防局

と連携しながら、実施をする学校が増えている。

中田委員　実習や課題学習などを多く取り入れると、時間がなくなり、教科書が進まないのではないかと思うのだが、どうか。

岡安専門委員　学研の教科書では、１時間の学習内容を、概ね見開き２ページで記し、知識を活用する場面において資料を充実させる等の工夫が見られる。

各学校においては、課題学習の時間確保と教科書の指導内容のバランスを考慮して指導計画を立てることが重要となるが、学研は、本文の内容と実習方法の手順がバランスよく含まれ、実習や実験に活かしやすい内容となっていると考える。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　続いて技術家庭に移る。調査研究の内容について報告をお願いする。

瀬山専門委員　来年度も開隆堂の教科書を使用することを推薦する。

調査員会では、前回の調査報告書をもとに内容を精査し検討した。詳細は報告書のとおりである。

技術科においては、１点目として、技術と社会や環境との関わりについて興味・関心を高める題材の工夫がされていると考える。

２点目として、視覚的に画像等の掲載が工夫されていると考える。以上の２点が特に優れている点であると判断した。

家庭科においても、来年度も開隆堂の教科書を使用することを推薦する。

開隆堂の特に優れている点は、1点目として、写真や資料が充実しており、説明がとても分かりやすく、基礎的・基本的な知識や技能の習得に効果的である。また、実習例や製作例がたくさん掲載されていることから、学校や生徒の実態をふまえた題材の選択へもつながることと考える。

２点目として、指導内容について、紙面に多くの工夫がみられます。特に学習の見通しをもたせるページや、「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」「ふり返り」や「学習のまとめ」などの構成が、しっかりと教科のねらいにそって設定されている。これらのことは、思考力・判断力・表現力の育成にもつながると考える。

このようなことから、川口市の子供たち、教職員の実態を考えると、開隆堂の教科書が使用しやすいと考える。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

菅原委員　開隆堂の教科書で、特に優れた点はどんなところか。

瀬山専門委員　写真が多く活用され、見やすく、分りやすい工夫が数多く見られる。

題材は、魅力的で、生徒の実態にあった扱いやすいものから、応用へと配列が工夫されている。取り扱っている実習や調査等の課題例が多く、生徒が自分の生活を見据え、選択の幅が広がるとともに、教師にとっても活用する

題材の選択の幅が広がると思われる。

題材全体が問題解決的な流れになっていて、生徒が主体的に学べる工夫も効果的である。

宿谷委員　本市では、これまでずっと開隆堂を選んでいるのか。

村越指導主事　昭和５３年以降では、本市ではこれまで継続して開隆堂を使用し続けている。

中田委員　埼玉県内では、どのくらいの地区が開隆堂の教科書を使っているのか。

村越指導主事　前回、平成２７年度の採択では、埼玉県内の当時２３採択地のうち、２１の地区が技術分野で、２２の地区が家庭分野でそれぞれ開隆堂を使用している。第１６採択地区（加須市・羽生市）が技術家庭科の両方の分野において東京書籍を使用しており、第９採択地区（川越市）が技術分野のみ東京書籍を使用している。

中田委員　本市の中学生の技術･家庭科では､どのようなことが課題になっているか。

瀬山専門委員　技術分野では、３点。

社会、環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し具体的な活用方法を考え出す力や目的や条件に応じて設計したり効果的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成。

他者と協働して、課題を解決していく力が弱いこと。

学習した知識・技能が実生活で生かされていないこと。

家庭分野では、２点。

社会の変化に伴い、家庭の機能が十分に果たされていない状況から、生活経験が少なくなっていること。

課題解決をしながら、よりよく過ごすために、習得した基礎的・基本的な知識及び技術を生活の中で活用しようとする実践的な態度を育むこと。

が挙げられる。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　引き続き外国語に移る。調査研究の内容について報告をお願いする。

奥墨専門委員　結論から申し上げて、来年度も東京書籍の教科書を使用することを推薦する。

調査員会では､前回の調査報告書をもとに内容を精査し､４年間の使用感･使用実績を踏まえて検討した。詳細は報告書のとおりである。

東京書籍の教科書は、次の５点が特に優れている点であると判断した。

１点目として、Ｕｎｉｔごとの構成が、「聞く」「話す」という音声を中心とする言語活動から、「読む」「書く」を中心とする言語活動へと構成され、インプットからアウトプットの流れが段階的に学習できること。

２点目として、３年間を見通して、豊かな表現力を身に付けることができる言語材料の配列になっていること。

３点目として、コミュニケーション活動に特化したＤａｉｌｙ　Ｓｃｅｎｅは、日常生活での使用場面を多く取り上げ、生徒の興味関心に適している内容であり、学年に応じてスパイラルに学習できること。

４点目として、Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎの「Ｈｏｐ　Ｓｔｅｐ　Ｊｕｍｐ」は、スモールステップを踏んで、自己表現できるように工夫されていること。

５点目として、巻末資料には、生徒の自己表現活動の幅を広げるボキャブラリーが充実していること。

以上である。

茂呂教育長　ただいまの報告について、質疑を行う。何か質問はあるか。

菅原委員　川口市の生徒や授業の課題はどんな点が挙げられるか。

大野指導主事　川口市の生徒に限ったことではないが、本市の生徒も「話す」「聞く」「読む」「書く」の４技能の中では、「書く・話す」に課題がある。

特に、「書く」については、英文で自分の考えや想いを伝えたり、ある程度まとまった英文で何かを説明したりする力が弱い傾向にある。「話す」についても、即興的に質問に答えたり、相手と会話を継続したりする力に課題が見られる。

これらを克服するために、授業では、ある特定の技能のみを扱うのではなく、例えば、聞いたものを理解し、そのことについて自分の考えを述べるなど技能統合型の授業を展開できるよう、研修などを重ねている。

中田委員　東京書籍の教科書を使用することで、どのようにこれらの課題を解決することができるのか。

奥墨専門委員　東京書籍は、３年間を通して、発達段階に応じて４技能をバランスよく配置している。

その中でも、特に「書く・話す」については、学習の積み重ねにより、基礎・基本から、発展的な内容まで身に付くように段階的に構成されている。「書く・話す」のアウトプットを効果的にするための工夫として、単元の前半は、豊富な「聞く・読む」のインプットを行い、知識を深めていくことができる。そして、各単元の最後には、その知識を運用して自分の考えを表現できる工夫がなされており、主体的・対話的で深い学びへと進み、より自己表現活動ができる教科書であると言える。

齋藤委員　東京書籍の教科書は全体の構成が３部構成になっているが、それはどういう意図なのか。

奥墨専門委員　基礎・基本の確実な定着を図るとともに、無理のない手順で着実に知識を習得し、英語による発信力を鍛えることができるようになってる。

Ｕｎｉｔでは、基礎となる語彙や文法を着実に身に着ける。

Ｄａｉｌｙ　Ｓｃｅｎｅでは、実際のコミュニケーション場面を想定した具体的な会話を通して言語の働きを理解していく。

Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎでは、既習事項を応用して、自分の言葉でアウトプットする経験を積んでいく。

宿谷委員　小学校の外国語活動とのつながりはあるのか。

奥墨専門委員　１年生では、Ｈｉ　ＥｎｇｌｉｓｈとＵｎｉｔ０を設けることで、小学校で学習した内容を「聞く」「話す」を中心に復習していく。また、アルファベットや文字・音の関係を確認し、文字の導入を無理なく行っていく。

茂呂教育長　他に質問はあるか。

各委員　なし。

茂呂教育長　以上で、中学校音楽、美術、保健体育、技術家庭、外国語についての協議を終わる。

それでは、一括して採択を行う。

中学校の教科書については、各教科の専門委員から現在使用している教科書について、詳しい報告や説明があった。

これから採択する教科書については、使用期間は来年度１年間のみということになっているが、専門委員からは、どの教科においても現在使用している教科書の継続使用が望ましいという旨の説明であったかと思う。

各教科での質疑応答を踏まえて、全体として委員の皆様からご意見があれば承りたいと思うが、いかがか。

各委員　なし。

茂呂教育長　それでは、確認する。

中学校の教科書については、

国語・・・光村図書
書写・・・光村図書
社会（地理・歴史・公民）・・・東京書籍
地図・・・帝国書院
数学・・・啓林館
理科・・・大日本図書
音楽（一般・器楽）・・・教育芸術社
美術・・・開隆堂
保健体育・・・学研教育みらい
技術家庭（技術分野・家庭分野）・・・開隆堂
外国語・・・東京書籍

を採択することに決定してよろしいか。

各委員　（異議なし）

茂呂教育長　では、議案第１１７号「令和２年度使用中学校教科用図書の採択について」を可決する。

関係理事者以外は退室を。

８　【その他】

茂呂教育長　　次に、日程第７のその他だが、何かあるか。

各委員　　（特になし）

９　閉　会

茂呂教育長　　以上をもって閉会とする。（午後４時５２分）